

さるゝか分明らかでない。私は、君子を氣取るのではないが、何れにしても、憂慮に堪へぬのである。

形式美と内容美

私は、虚儀虚禮を勧めようとは思はない。形式の美よりも、内容の美が尊いからである。けれども、内容の美が尊いからとて、形式の美を捨てることは出来ない。人が相互に相對する時は、其の内容の美よりも、先づ形式の美に着眼する。此の形式美を透ぼして、内容美を讀もうとするのが常である。私等に於ける形式美は、言動の美である、内容美は、精神の美である。言動の美は、やがて品格を向上せしむるものである。所謂品位ある人たらしめる。古來、英雄豪傑の中には、此の品位を備へないものもあつた。けれどもそれは僅少である。多少、社會に地歩を

占めた者は、大抵品位を備へない事はない。チエスタールフキールド卿の所調、美はしい容貌、優雅な行動、適當な衣服、調和的な聲、愛嬌を含んだ快活な顔、變化明快、適切な言語は、私等を品位ある人物たらしめる。斯うした要素を具へたものは、如何なる社會に於ても、必ず敬愛せらるゝてあらう。

不行儀は感情を害す

今日の學生諸君は、昔の學生に比較すると、蓬のやうな頭髮や、ドロドロに汚れた衣服を着けたものは少くなつた。之れ喜ぶべきことである。之に加ふるに、無作法と亂雑との癖さへなければ申分がない。不幸にも、此の點に就ては、往々咀ふべき一團の人々を見るのである。彼等は、先輩に對する禮を知らない。従つて友人に對しても亦禮を

行はぬのである。人の前て平氣に大きな欠伸をしたり、頭髮の垢をゴシ／＼かいたり、ゴロリと横になつて足を投げ出したり、帽子を被つた儘で挨拶したり、舌鼓を鳴らしたり、鼻糞を穿つたり、舌背ずりをしたり、馬鹿笑いをしたり、アングリと口を開けたり、種々の悪い癖を示して、平氣で居るのがある。それが公會の席上に於ても、神聖なるべき教場に於ても、演ぜらるゝのである。

教場に於て、講師の説を聞く時、肱杖をしたり、横を向いて隣のものと同視合つたり、耳の垢を取つたり、鼻の先を抓んで見たり、種々の醜態を見せる。之等の事に就て、外國の教師の中には、甚だしく、感情を害した人さへある。

斯うした行動を示す時は、假令、其の精神が假りに紳士的であるとしても、品位なきものとして、窃かに輕侮せらるゝことを免れないであらう。更らに一步を進めて云へば、之から亂雑や、不秩序が生じて、相互の感情を害する原因となるであらう。故に私等は如何しても、或程度迄、禮節を守らねばならぬ。師弟の禮、父子の禮、兄弟の禮、遡つては君臣の禮を知つて、之を嚴守し、下つては、服裝態度、談話訪問、會食に就て、相當の禮を守る必要が生ずるのである。

敬愛の情

禮法の根本は、恭敬の精神にあることは、今更、云ふ迄もない。相手に向つて敬愛の情有せないと、折角の禮儀も、却て輕薄追笑のやうに誤解されるゝことがある。世間には長上の人の歡心を得んがために、無暗に頭を下げ、追笑をする者がある。之等は、衷心から敬愛の情有しなないのであるが、唯、月給を増して貰ひたい、早く立身したいと云ふ方便か

ら出るのて、却て悪感あくかんを催もよほさしめる。必竟、其の精神せいしんに於て、恭敬きやうけいの分子が稀薄きぱくなからである。文相として好成績かうせいせきを擧げた井上毅氏は、其の「家憲かけんに於て、賓客ひんかくを待つ、必ず恭敬きやうけいなるべし」と云はれたのは、此の必要を認められたのである。福澤翁も亦「禮儀れいぎ作法さくぽは、敬愛けいあいの意を表する人間交際上の要具ようぐなれば、苟かりめにも之を忽ゆるがせにす可らず、只其過不及かたがたなきを要するのみ」と教訓けうくんされてある。乃て知人に對する時は、内部ないぶに恭敬きやうけいの心を保ち、外郡ぐわいぐんに程ほどよき作法さくぽをなすべきである。馬鹿ばか丁寧ていねいは禁物きんぶつである。假令たとひ、それが心の底そこの誠まことから出ても、煩うるささがられるであらう。

禮儀正しき名士

古來こらい、名士めいしの中で、禮儀れいぎ作法さくぽに注意ちゆういした人は、數へきれない程である。就中じゅうちゅう、明治の大宰相だいさいしやうとして萬人に仰望けうぼうされた大久保利通公は、禮儀れいぎに厚

い人であつた。公は部下から辭儀じぎを受けると、丁寧ていねいに頭あたまを下げて、疊かさねへ二三寸ばかりの處で、俯向うつむいて辭儀じぎされた。又た客に接する前、毎朝まいさう、風呂へ入つて、身體しんたいを清め、衣冠いくわんを正しうてから客に面會めんかいされた。而して客が歸る折は、玄關げんくわん迄送おくつて出て、シツカリと辭儀じぎされたさうである。従つて公は、何人にも畏敬いけいされ、其の一言ごんは、千斤の重味おもみを持つて居た。磊落らいらくな故伊藤公さへ大久保公の前では、肅然しよくぜんとして襟たもとを正ただうされたと聞いて居る。之れ大久保公自身みづかみが、禮儀れいぎを重んぜられたからである。右大臣みぎのちじん藤原三守は、見識けんしき學問がくもんに長じた人であつたが、參朝さんちゆうの途次とじ、學友がくゆうに逢ふと、必ず下馬げまして、禮れいを施ほどこしたさうである。故に彼も亦衆しゆうに重んぜられた。

諸君、現今いまのやうに禮儀れいぎ作法さくぽの亂れた際に、斯うした話をする、如何にも馬鹿ばか々々ばかばかしく思はれるかも知れぬ。けれども諸君は、恐らく之を

軽々に聞き過されぬであらう。必竟、禮儀は社會の組織上重要な一分子となつて居るのであるから、平生之を修めて物笑ひにならぬやう振舞ふべきである。

禮儀の要點

私は、此に繁瑣な禮法の講義をなすことを好まない。唯、要點だけを云つて置かう。服装は、質素を尙ぶが、清潔なものにしたい。而して總べてが調和的でありたい。木綿羽織に仙臺平の袴は可笑しい。矢張、小倉袴になすべきである。態度は眞直に、胸は少し張出して男らしくしたい。頭髮其の他は、御シヤレをするに及ばぬが見苦しくないやうに整へねばならぬ。訪問の禮は、先方に都合の悪い時間に行く事、徒らに長座して、迷惑を感じしめることを避けるやうにしたい。極めて親

しい間の交際でも、多少の遠慮をなすが宜い。會食の禮は、靜かなる裡に、快く談話を交換して、和樂の感じと、秩序ある態度とを以て終始すべきである。食卓に於て、議論がましい事や、不快の感じを與ふべき談話は、全然謹まねばならぬ。勿論、之も親しい間に於ては、極端に遠慮することゝを要しないが、程よく右の趣旨を實行するが宜いと思ふ。大體、形式上の心得は、此に盡きて居る。要は其の根本精神たる恭敬を忘れぬにある。諸君は、何人にも卒先して、亂れかゝつた禮儀作法を維持し、品位を保たれたいものである。而して無作法の分子を、極力、驅除されたい。之れ私の切なる希望である。

“You will not sulk or feel neglected if others receive more attention than you do.”

第十八 貧乏祝福論

生活上に於ける激烈な競争が行はれつゝある今日、私が貧乏を祝福すると云つたら、恐らく虚偽の言を吐くものと思はれるであらう。成程、私も貧乏を好むものではない。けれども現今のやうに、何人も物慾に囚はれて黄金や、不動産を得た上にも、尙ほ得んとして、修羅道に落ちた餓鬼のやうに喘ぎもがきつゝあるのを見ると、何となく、此の風潮を咀ひたくするのである。賢哲エピキュラスと共に「我にパンと水とあれば、樂み天帝に譲らず」と云つて見たくなるのである。

近代の社會は歐米に於ける物質文明の余光に依て、多くの利便を得たことは明かである。奇抜崭新を競ひつゝある汽車、電車、壯快な——其の癖私等に不快を感じしむる殺風景な——自働車、電氣瓦斯の白光

之等は、種々の利便を與へた。それと同時に一方に於て、私等に最新の科學的知識を吹込んで呉れた。此の點は感謝せねばならぬ。けれどもそれと同時に、多くの高等遊民を出して、物價の騰貴を現出せしめ、生活難の聲を揚げしむるに至つたのは、避け難き苦みである、今や多くの人々は、此の生活難を切抜けんとするに余念がない。乃て私は、貧乏祝福論を叫ぶのである。

清貧の趣味亡ぶ

諸君、私が假りに諸君に對して「諸君は貧乏を愛せらるゝか」と問へば、其の十中八九は「ノー」と叫ばれるであらう。然り、凡そ世の中に貧乏を喜ぶ人はない。それと同時に、若し私が諸君に「富貴を望まらるか」と云へば、其の十中八九は「イエス」と云はれざる迄も「ノー」と云はれぬにちが

いない。之れは、自然の人情である。貧乏そのものは必ずしも悪くはないが、之に伴うて来る不自由、欠乏を嫌ふのである。富貴は、必ずしも尊ぶべきものでないが、之に伴ふ豊満、愉樂を愛するのである。

我日本は、徳川幕府の時代迄は、天災から来る饑饉に悩まされたことはあつても、生活難の聲を揚げるものはなかつた。勿論幕府時代にも、生活難に苦められたものはあつたらうが、今日のやうに中流以下の人々が、揃ひも揃つて、其の苦みを痛切に感じはしなかつたのである。従つて假令、貧しい生活をして、自ら心の上に餘裕を存して居た。或は、清貧と稱して、其の汚れざる貧乏を誇りとするものさへあつた。所謂「清貧」の誇りは、明治廿年前後迄、一部の文人に依て保れて居たやうである。けれども今日は、「清貧」を以て誇りとする者は全く其の痕を絶つて了つて、獨り「生活難」の叫びのみ高い。殊にそれが中流階級の家庭に於

て著しいのである。

元氣漸く銷沈

一國の元氣は、主として中流階級に於て維持されつゝある。何となれば、中流の人々は相當の教育もあり、品格もあり、又た幾分の資産をも有するものがあつて、而かも最多數を占めて居るからである。處が此の中流階級にある多くの人々が、生活難に襲はれて、之を防禦するのに、日も足らないとすれば、一國元氣の興廢に關することとなる。或は、斯うした支障のために、元氣の銷沈を見ぬとも限らぬのである。

凡そ生活に追はるゝ程、心身を過勞するものはない。年中、足らぬ足らぬとのみでは、他の重要な務——精神修養——をも閑却して平凡に墮し易いものは、次第に極端な平凡者となつて了つて、往年の元氣は、影

も形も見せなくなる。斯うして毎日に一人二人宛、中流階級に於ける元氣消亡者を出すことは、やがて一國の元氣が、地を拂ふやうな場合を招致せぬとも限らぬのである。此の點は、大に憂慮すべきことではな

富に對する渴望

生活難の叫び高き一方に於て、富に對する渴望は、非常に高まつて來た。何となれば、之を貸本屋の番頭に聞き、書肆の主人に聞くと、株式賣買とか、致富術とか云ふやうな極めて實利的な書物が、羽をはやしたやうに賣行くからである。殊に現代になつてからは、一般の富豪達が奢修華美を競うて、我物顔に自動車を乗廻はし、三越に流行の粹を購入して、誇らし氣に振舞ふ風が、やがて中流階級の全面に多少の波動を及ぼ

し、一層、富に對する渴望の情を高めたのであらう。冷かに聞くと、埒もない話であるが、其處が人間の弱點である。

中流階級の間に於ても、實業界に頭を突込んで居る人達の家庭は、比較的に餘裕を存するから、虚榮好きの夫人は、頻りに其の扮装や、旅行や、其の他に於て、成るべく上流婦人と同一に見られたいものと、餘分の贅澤を盡す傾向がほの見える。而して之が中流に於ける下位の人達の家庭にも、模倣者を出さんとする處があるに至つては、愈よ生活難の逼迫に惱まねばならぬ。其の男主人公たるものは、二重の苦みを嘗める有様である。乃て意志の弱いものは、全然空望に終ると知り乍らも、無暗に富を渴仰するやうになる。けれども富は、左様に簡単に得られな

今の元老達が若い時分は、未だ秩序が整はぬために、實業界にあるも

のは勿論、其の他の人々も濡れ手で粟を攫むやうな旨いことが多かつた。現代の富豪として、大なる成金黨として得意なる者の中には、此の秩序の整はぬ際に、一攫千萬金の僥倖を得たのがあるらしい。けれども現今のやうに秩序が一定されて、巨萬の富を得べき余地を存しない場合には、矢張、ポツ／＼厘毛の利を積んでゆくより他はないのである。即ち富の渴望は、終に渴望——或は空想——に終るかも知れない。

生活難の急潮

富に對する渴望や、上流に於ける奢侈の模倣は、或程度迄之を抑止することは出来るであらう。唯、生活難の苦みは、容易に除き去られない。今から十數年前は、月給三十圓を受取れば、相當な生活が出来たし、場合によれば、其の心懸け一つで、貯金も出来た。現今は、六十圓の月給を貰

つても、妻子と下女と四人で生活するさへ、ともすれば欠乏を感ずるのである。先づ百圓の月給でないと充分な生活が出来ない。萬事が此の調子である。而かも中流の部分には、四五十圓の月給取が多いやうに見受ける。少くとも、獨立して營業しつゝある人々も、大した相違はあるまい。

勿論、此に云ふのは、都會生活に就てである。田舎へ行けば、三十圓の月給があれば、先づ左程の不自由を感じずに済むであらう。五六十圓もあれば、相當に貯金も出来よう。之とても、十數年前に比較すると、矢張、物價の騰貴を示しつゝある。すると私等は、全く若い時から老年に至る迄、安心する暇もないのである。然し乍ら始終、不安心に襲はれ、生活に悩まされて居ると、早老早衰を免れないから、何とかしなくてはならぬ。乃て私は、貧乏祝福論を叫ぶ。

富は絶對的幸福に非ず

富は貴重なものではない。富の使用法如何に依て尊くもなり賤しくもなる。佛國の富豪アルベル、カイン氏の如きは、富の使用法を誤らない人である。氏は、獨力空拳を揮つて巨富を得たが、未だ結婚しない今日、世界一週會なるものを企て、着々、世界人文に貢献しつつある。世界一週會の目的は、最初佛國の學者を外國に派して、正確なる外國の知識を修得して持ち飯らしめ、外國の學者にも、佛國の真相を理解するやうに力めて、相互感情の融和から世界の平和に貢献せんとするにあつた。而して之等有力な學者の調査は書冊として刊行して、世界の定論を造るに力めた。其の結果が甚だ宜いので、之を獨逸、英國、米國、日本にも試みるやうになつた。即ちカイン氏の立派な思ひ立に依て、世界

を週遊しつゝある各國の學者は可なりにある。而して巴里には、此の會に屬する堂々たる俱樂部が、ブロンニユ公園の西方に建てられて、セインの清流を瞰下して居る。カイン氏の如きは、富を善用した模範である。

けれども「金と灰吹は溜るほど汚くなる」と云ふ俚諺がある。富豪の中にも、從來貯蓄し、獲得した富を、社會人文のために放散することを好まないのがある。或は、一文も手放さぬ者もある。「それで可なり」と濟まし込んで居るものもある。全く御話にならぬ。さらば彼等は、年中幸福であるかと云へば、必ずしも左様でない。案外に苦勞の多いものがある。朝夕、召使の中に金を盗むものはあるまいか、或は盜賊に襲はれはしまいかと心配したり、金が殖えなければ、少し大きい金儲けはなからうかと、鞆の目、鷹の目で探し廻つて居る。或は衣食住に欠乏が無

くても、家族が病弱であつたり、自分が病に惱まされたりして、外見から察せらるゝやうに氣樂でないものもある。紅葉氏の「金色夜叉」に現はれたお宮は、不圖、虚榮心に誘惑されて、富山唯繼に嫁したが、其の幸福もホンの一時で昔の許嫁の夫たるべかりし貫一に怨まれ、唯繼の放蕩に心を苦めて、今更に、富の力の萬能ならぬに懺悔の涙を流したてはないか。斯うなると、富は極力渴望する程の價値はない。哲人エビクタータスは云つた「満足は富の多さに依らない慾の少さに依る」と。穿ち得た名言である。

黄金萬能者の夢想せざる清樂

曾て晴れた秋の夕、私は、とある河岸を歩いて居た。後から何かバサバサ足音がするので、振かへると、一人の労働者が汚れた法被を着て、破

草鞋を穿ち、辨當の包みを腰にブラ下げて、飯途に就くやうであつた。すると、數間後の方から歩いて來た今一人の労働者が、漸く追い付いて、「オイ、今夜、一杯飲もうぢやあねえかと、如何にも楽しさうに云つた。私は、それが羨ましかつた。彼等の破屋にも、鮮かな秋の月は、其の清光を投射するであらう。一日の汗を風呂屋で流して飯つてから、ノンビリとなつて、濁酒を飲み乍ら、其の妻と快く話す光景を胸に畫くと、却て労働者の如く貧しい生活をして居る者の頭に幸福が宿るやうに思はれた。物は見やうに依て如何でもなるのである。

私は、労働者の幸福を讚美して、總べての人に労働者の如く動き、彼等の如く生活せよと云ふのではない。黄金萬能の如く誤想する人の眼に見えぬ清福が、彼等の間にも存することを説いたのである。中流生活を未來に營まんとする諸君、徒手空拳を以て、中學卒業後に活動せん

とする諸君は、此に三思しなければならぬ。

知足の念に伴ふ心の余裕

私は、極めて黄金に縁の薄い仕事に努力して居る。従つて普通の中流生活を營むに過ぎない。欠乏もない代りに、餘裕もない。手一杯に生活して居る。若し不平を云へば、際限もないが、今はもがいたり、焦慮つたりするよりも、確實に一步步進むのが最後の勝利なりと信じて居る。

私には、氣の利いた別荘もない、大なる貯蓄もない。けれども私は、失望もしなければ、閉口もしない。何となれば、前に云つた通り、満足は富に依らない、慾の少きに依ると云ふことを確信するからである。若し分外の収入を得んとして、毎日、心を勞する時は、中流階級の特權たる靜

平健實の心さへ失つて了ふことを豫想しなければならぬ。少々の黄金を余し得ても尙ほ、足らぬくくして焦慮しなければならぬ。斯うした心持を持続しても、一時に巨富を得られないのであるから、それよりも、一方に節儉を守り、一方に天然美を愛し、花園でも作り、時としては、芝居や寄席に遊び、簡易な平民的旅行を一日でも試みて、心身の快暢を計つた方が、遙かに確實で又た安心である。此の心持を持続すれば、假令、生活難の叫び聲が高くとも、又た自分に物質上の余裕がなくとも、精神的に余裕を有し得るであらう。さすれば、貧乏必ずしも苦とするに足りない。而して秩序を追うて進みゆく間に多少の余裕を物質上に得る時代が来るにちがいない。萬一、來なければ來ないで、男らしく諦らめて、高傑な心の富に満足すべきである。其處に眞實の快樂と平安とが存するのである。

曾て私は、英國の政治家ジョン、ブライトと並稱されたランダル(米人)が、少しも生活難を知らなかつたことを聞いた。それも其の筈である。彼は品行極めて方正、不正なる金銭は一弗半錢でも受取らないで、質素な衣食住に満足して居たからである。而かも彼は、之に依て公私の信用を得て、大なる敬愛の情を捧げられた。彼は真に足ることを知つた人である。

„One of the most promising things about our civilization to-day is that, side by side with the greed for gold, is the evergrowing passion of humanity for good.”

第十九 俠骨讚美論

諸君仁俠を以て一向知られない私が、諸君に向つて、俠骨を説くのは、或は潜越かも知れない。私が生れてから今日に至る迄、三十余年間、多少、人に誇るべき俠骨を發揮したかと云へば、誠に發揮した分量の稀薄なるを恥ぢざるを得ない。けれども多少、俠骨の趣味を喜ぶ上に於ては、他に譲らないかも知れない。唯、今日は、左様したことを願慮するに暇がない。何となれば、現在の社會に於て、俠骨を有する者が、次第に少くなつてゆくからである。若し此の義俠の風が、全く地を拂つたら、日本固有の一美德を失ふことになるではないか。

俠骨は、即ち義俠、仁俠の總稱である。苟くも義のある所は、自分の利害を忘れて之を助け、無邪氣な人の苦みを見ては、敵と雖も、之を救ふの

が、俠骨の本領である。彼の徳川時代に於ける俠客の如きは、或意味に於て、俠を銜つた傾向はあるが、矢張、俠骨の幾分を發揮したものである。要するに、俠は、男氣と云ふ意味である。従つて、俠者とは、男氣を發揮したものを稱するのである。之が今、欠乏して居る。

人道と情味

生存競争の激甚なために、人々相助ける余裕さへないのは、自然の勢である。近隣、知人の間に、困難するものがあつても、先づ自分の生活に就て心配する必要があるので、心ならずも之を見逃がすものがある。之れは未だしもである。若し夫れ黄金の他に、何等の趣味を感じない我利々々亡者に至つては、他の急を顧みないばかりでなく、寧ろ之を冷笑して快とする氣分さへ見える。斯うなつては仕様がなない。利害の

上から打算して、利益の見込あるものは助け、利益の望みなきものは見捨てるとすれば、二と二と合すれば四となると云ふやうな殺風景な人生となる。私等は、斯うした人生なら、寧ろ咀ひたくなる。

けれども一方には、此の打算的、人生的に満足し得ない少數の人があらう。御互ゐりに社會を組織する以上は、未知、既知の如何を問はず、多少の情味を感じずべき筈である。其の情味もなしに、枯木冷灰の如く澄ますことは、血性漢の堪え得る所ではない。それと同時に、正理の存する所は之に味方し、正理のない所は、之に反對する傾向を有せざるを得ない。不正に與して勝利を得た時は、何となく心に濟まない。何處か不快な感じが纏ひ付く。けれども正義に味方して、首尾克く之を成立せしめた際は、曇天の後に初めて晴れ渡つた碧空を仰いだやうな感じがする。人は、打算的ならざる限り、此の傾向を有せぬものはない。斯うした少

數の人に於て、初めて俠骨を見出すのである。

俠者の精神

微臭い昔の小説家の手に成つた月式小説の中には、善は榮え、惡は亡びて、目出度し／＼に終るのが多い。けれどもそれは、必然的事實でないことは、初めから何人にも分明つて居る。道徳を嚴守するものが、必ずしも榮える理由のもてないと同時に、惡人が必ずしも亡びる理由のものでもない。要するに、之は何ともわからぬ。若しエマソンEmersonの如く、所謂宇宙の大法から見れば、惡人は、心靈的に死滅し、善人は、心靈的に榮えるのである。之れ根底から見た結論である。然し心靈的に見るのは別にして、單に差別相の上から見ると、随分癩に障る事が多い。貪亂邪智の徒が、無邪氣な弱者を、酷遇し、壓制して居ることは、往々見受

ける所である。男子として此の憎むべき強者に反抗したくなるのは、自然の情であるまいか。

正義の擁護！之がためには、弱者を苦める邪惡の徒を打懲することが必要である。假令自分は、それがために損害を蒙るとしても、黙つて見て居られない。敢然として強い邪惡の徒に向つて戰を挑みたくなる。之れ所謂、俠者の精神である。

又た敵にもせよ、味方にもせよ、知人にもせよ、未知の人物にもせよ、萬止むを得ずして——不正の事を行はないに關らず——窮地に陥つたとせよ、傍らにあつて、之を傍觀するに忍びず、及ばず乍ら何とかして救ひたいと云ふ男らしい精神に依て、應援するのは、俠者の振舞である。打算的の徒が之を見たら何と云ふであらう。其の返答が聞きたい。

無形の報酬

與へるものは、與へられ、奪ふものは奪はる。之れ宇宙に於ける報償の理法である。人の苦むのを見て、之を助けた爲めに、往々種々の損失を招くことがある。或は財産を減じたり、或は自分の生命に累を及ぼしたり、痛くもない腹を探られたりすることがある。けれども俠者は、精神的に必ず酬ひられる。彼は、心の中で、自分が爲した所を回顧して、何とも云へぬ快感を得て、會心の笑を浮べることを禁じ得ない。それは恰度、夕立の後に洗つたやうな空に於ける月の姿を見た趣にも似て居るであらう。

更らに之を助けられた側の人物に見ると、彼は、二と二と合せて四の如き人生に於て、よもや自分の窮迫を助けて呉れるものはあるまいと思つて、怨めしく、悲しく、絶望の淵に沈んで居た折、俠者の力によつて、其の淵のドン底から救ひ上げられ、此に初めて二と二と合せて六となる趣味の人生を見たであらう。殊にそれが善人であつて、悪徒の苦める所となり、終に支え得ないで困窮したものとなれば、一種名状し難い強い感激に打たれるであらう。「渡る世間に鬼はない」との好影響の下に、彼は、蘇生したやうに勇氣を盛返へすであらう。之れ俠者が社會に及ぼす有力な感化である。果然、與へるものは、又た與へられるのである。

史上の俠傑

史上に於ける俠者の振舞を見ると、私は、強い感激に打たれざるを得ない。上杉謙信が其の敵信玄の國が、鹽の欠乏に苦むのを見るに忍びないで、之を贈つたのは、有名な佳話である。此の事は、少からず謙信の

男振を揚げた。パイロンの半生は、放縦を以て満たされて居るが、其の晩年、劔に杖ついて、ギリシヤ獨立軍に投じ、一片の俠骨を發揮した爲めに、後世の同情を得た。更らに楠正行が俠者の精神を具現した事は、多大の感動を惹起するのである。彼は、父の遺言を奉じて、勤王のために奮闘を續けて居たが、貞和三年十一月、敵軍山名時氏、細川顯氏等が約二千の兵を従へて、住吉天王寺の兩所より來襲することを知つた。乃て正行は、機先を制して敵を瓜生野に要撃して、之を惱まし、進んで阿部野に出た。其の一族の兵を、天王寺方面に壓迫した。さらぬだに、狼狽した敵兵は、之がために全く進退の度を失つて、逃げまどひつゝ、渡邊橋から河中に陥る者が數へきれない程であつた。正行は、情を知る大將である。此の有様を見て、敵を憐み、味方の兵士をして、之を救助せしめたのみならず、衣服を與へ、藥を給し、負傷者を慰め、騎兵には、乘馬を與へて歸還せしめた。救はれたる者の中には、此の仁俠の振舞に感激して、正行の味方となつた者さへある。而して之等の輩は、四條畷の戦ひに、最も勇を揮つて、正行に酬ひた相である。之れ義俠の徳てはあるまいか。而かも正行は、必ずしも左様した報酬を豫想しなかつたのである。報酬を要求せざる仁俠は、之れ寶玉にも優つた光輝を放つものである。

人生に於ける一點紅

今や打算的の人間のみ多くなつて、仁俠を以て迂なりとし、成るべく斯うした行爲から遠ざからんとして居る。人生を二と二と合はせて四たらしめん事に腐心する者が多い。斯うなつては、人生徒らに無味無色、沙漠のやうになるであらう。私等は、到底寂寞に堪えないことになる。せめて俠骨の發揮に依て、一點紅を見出すならば、倦怠から免れ

得るであらう。私は、俠者の續出を翹望しつゝある。諸君力の及ぶ限り、不遇の弱者に萬斛の涙を灌がうてはありませんか。之れ正に男子の快心事である。否、當然の本能的作用である。

“On the other hand, the law hold with equal sureness for all right action. Love, and you shall be loved. All love is mathematically just, as much as the two side of an algebraic equation.”

第二十 空想の窓より見たる實世間

S君、

今年は、非常な暑さです。瘦せて居る私は、余り暑さを感じない方ですが、今度ばかりはジツとして居ても、汗がダク／＼滲み出て仕様がありません。旅行するにも暇がないので、毎日、庭の草花を眺めて、ボンヤリ暮して居ます。時には、ベーターや、シモンズの論集に親んで、冥想に耽るやうなこともあります。時には、マツハの認識と誤謬や、ポアンカレの「科學の價值」などを讀んで見て考へ込むこともあります。之れも亦讀書子の一興です。

御手紙に依ると、貴兄も今年一年経てば、中學を出られるので、大分、社會に對する抱負を持つて居られるやうです。貴兄の眞摯な性格に依つ

て、其の志す所に向はれたら、必度、大なる收穫を得らるゝことゝ信じます。

社會の表面

S 君

私等は何時如何なる場合に於ても、眞面目な淺薄でない Hedonism に立脚したいと思ひます。常に樂天的な Atmosphere の中に居たいのです。けれども又た一方に充分社會の實相を研究して、生活上の戰爭に敗れない丈の用意をせねばなりません。我等は、ウイリアム、ブレークの云ふやうな天才ではない。時代を超越してゆく丈の非凡な才能はありません。故に私は、今日も一生懸命に社會を研究して居るのです。それに就て思ひ出すのは、中學時代の生活です。其の頃は、社會と云

ふものを、餘り考へて見なかつたのです。毎日、友人と遊び廻つて、輕快な氣分を繼續して居たのです。然し中學を出る一年前位の時分から「將來、社會に接觸せねばならぬ」と考へました。それも極めて皮相な色眼鏡で見て居たのです。恰度、舞臺の上に演出せられる芝居の光景のやうに氣輕に眺めたのです。

歡樂の結晶か苦悶の幻影か

S 君

現在の私は、生活の苦悶を経て來たので、著しく心身を鈍らせたやうに思ひます。鋭き官能も、幾分か働きを緩うされました。實世間の事物に對して、一々 Curiosity の眼を睜つたのが、今は、左程動かされなくなりました。私はそれを悲みます。中學時代に學窓から眺めやつた社

會は、輝いた希望、限りなき歡樂の結晶のやうにも見え、時には、苦悶、哀愁の幻影のやうにも見え、ました。それを一貫する氣分は、「物珍しい」と云ふこととてありました。

時としては、社會が、巨大な惡魔のやうに見えて、弱き無經驗の私等は、其の手に攫まれて、種々威赫されはしまいかと危ぶまれました。けれども此にも、「Curiosity」の感じが伴うて居ました。要するに恐しいやうでもあり、嬉しいやうでもありました。而して「早く社會へ出て一働きしたい」と期待したのであります。

今日の學生諸君は、私等の時よりも、伶俐聰明となられたやうです。勿論、私等の中學時代とは、社會の見方が、變つて居ませう。私等が甚しく空想的であつたのに比較すると、餘程 Realistic の色彩を加へて居るらしいです。貴兄の御感想は如何ですか、私は喜んで承りたいのです。

す。

冷かなる實體

S 君、

私の經驗から割り出して見ると、學窓から見た實世間と、學窓を出て、之に撞突つた實世間とは、全く異つて居ました。それも其の筈、學生の時、唯、軽く其の皮相の一膜を揣摩したに止つたからです。けれども愈よ其の心髓を穿つと、社會は、決して喜ばしいものでなく、さればとて恐しいものでないことが分かります。

けれども此に斷言したいのは、社會は、極めて冷かな實體であることです。彼は、善人をも容れ、不善人をも容れ、各自の生存競争を續けさせ、倒れるものを葬り、勝利を得たものを殘留せしめつゝ進みます。一瞥

すれば漠然として居ますが、能く見ると、中々複雑で、一種の迷宮のやうです。従つて之に接近し乍らも、矢張、其の真相は容易に分明らないのです。

社會の實相を間接に研究せしむるものに、小説と戯曲とがあります。けれども之とて、全面に渡つて透徹して居ない。之に依つて其の一部を間接に知得する丈に止ります。社會の真相を悉皆知り盡すには、五年の歲月も尙ほ足らないでせう。

殊に初めて社會に出た諸君は、物珍しいと云ふ感じが前に立つて、ツイ迂濶々と歳月を經過せしめることが多い。而してそれが最初から順潮に乗つて進む人は、存外暗黒面を嗅ぎ付けることなしに過ぎるの也有りませう。けれども社會の表裏は、充分に突き留めるべき必要があります。

暗き一面

S君

私は、此に暗黒面を摘抉して、貴兄の純潔な心に不快な印象を與へたくはありませぬ。然し社會には、學窓から眺めたやうな光景ばかりでなく、恐しい暗黒面が潜むて居ることを認めねばならぬのです。其の縮圖は、日々の新聞紙上に現はれて居ますが、それよりも世の中に知れ亘らない紳士達の虚偽罪惡が甚しく多いやうに見受けられます。それが唯法律や、道徳上の制裁を受けない丈です。必竟社會の網は、小さな弱い魚を捕へて大なる強い魚を逸するからであります。

私は、社會の暗黒面に就て常に憤つて居る一人です。現代を我物顔に横行する紳士の中には、法律と牴觸しない程度に於て、種々の誑詐を

遅うし乍ら、道徳家を以て標榜し、君子を以て自任するものさへあるのです。之等の輩を見る毎に、片腹痛いのであります。私は此の事を考へると、何時も絶望します。而して文明の度が進むに伴れて、暗黒面の地圖は愈々擴るのです。

正義の勝利

S 君、

貴兄は、私の嘆聲を聞いて、別に驚かれないでせうが、未だ充分適切に感じられないかも知れません。之は、如何しても直接、社會に近付いて、自分の正しい事業を開始する迄は、其の關係が稀薄なからです。けれども既に社會の實相が、學窓から望見したやうに興味ある清きロマンスの結晶でない以上は、豫め之に對する用意を急がねばならぬのです。

さらば其の用意は何か。私は斷言します、正義を踏んで恐れないこと、唯それ丈であります。世の中には、正義の價値を輕視して邪惡の道に進む人もあります。けれどもそれは最後の勝利を得る所以ではありませぬ。現世的皮相的に見れば、或は邪智便佞の小人が、利得を擱んで居るかも知れませぬが、棺を蔽ふの後まで見透すならば、如何てありませうか。私等は、此の點を深く考へて、慎重なる周密の用意を以て社會に對せねばならぬのです。殊に之れが學窓を出て、實世間に接觸せんとするには、一層左様した覺悟を要します。曾て米國創業の英雄ワシントンが、英國の壓制に反抗して、衆と共に、獨立の旗を翻へした時、連戦連敗の窮境に陥りました。多くの人々は、之に絶望して離散しようとする氣色が動いたので、ワシントンは、確乎たる自信に満ちた態度で「諸君、我軍は、正義の軍である。正義の前には敵がない、假令、連敗すると

も、結局の勝利は、味方にあるから大に戦はねばならぬと云つた相です。衆は之に勵まされて、勇氣を盛返へし、到頭、獨立の自由を得ました。矢張、正義は、最終の勝利であります。私は、貴兄が、學窓から見られた實世間に就て承る積りて、到頭拙劣な所感を述べて了ひました。最初から秩序を立て、申上げないのですから、其の積りて御覽下さい。余は後日に譲りませう。

第二十一 職業難

時代は一轉化した。

私等の學生時代には、如何にして、職業を選択しようかと云ふことが、中心の問題であつた。處が今日の中心問題は、如何にして職業にあり付かう乎と云ふことである。勿論職業の選擇にも心を勞するてあらうが、世智辛い時勢は、無邪氣なる學生諸君をして寧ろ就職方面に腐心せしむるに至つたのである。之は、父兄の罪でもなければ、學生諸君の罪でもない。時勢之を然らしめたのである。

近來、高等遊民問題が甚だ旺んであるが、之も矢張、就職問題から來る叫び聲である。之等の事が、一層諸君の中の一部分をして神氣を昂奮せしめ、學窓にある頃から、職業問題を考慮せしむるに至らしめた。同

情に堪へないことである。

職業に對する迷想

諸君、

私をして直言せしむれば、諸君は、矢張、職業の選擇に就て第一に考慮しなくてはならぬ。官局萬能の日本なればとて、誰も争うて官吏を志望するに及ばぬであらう。官吏たるに適するものは別として、如何に俊秀でも、官吏に不向な性質もある。それには、職業に上下の差別を設ける迷想を、根底から破壊してかゝらねばならぬ。古來、士農工商と云ふやうな差別的の見方があつた。處が此の頃は、一番、下位に置かれた工商の徒が、頭角を擡げ出したてはないか。此の方は、英米流に従つて、も少し開けた考へを持ちたい。大工であらうが、左官であらうが、若し

其の技倆に優れた點があつて、品行が正しければ、紳士として、他の精神的の事に従ふものに並行せしめて可なりである。けれども現在の世間では、兎角、職人や、労働者を輕視する弊があつて不可ない。之は極めて不賛成である。英米の職工の中には、其の仕事で済ますと、他の紳士と比しく、盛装して、夜會に出かけ、佳人と舞踏することが出来ると聞いて居る。日本も、職業差別觀を捨て、平等觀に傾くやうにならなければ、其の進歩は緩いてあらう。

職業撰擇に就ての注意點

諸君、

既に職業の上に何等の差別を設けないとすれば、諸君は、其の趣味性格の如何に依て之に適應した職業を、選むことが肝要である。唯、此に

注意しなければならぬのは、其の兩親が工業家になれと愛息に勧むるに、關らず、愛息は寧ろ文學者にならうとするような場合が随分ある。即ち職業選擇に就て、父兄と子息との間に衝突を演ずるのである。此の場合、子息は必度、先輩の許に赴いて、其の所思を述べ、意見を求むるであらう。處が先輩は工業を本職として文學は、ホンの道樂にするが宜いと云つて、處世の上から勸告するであらう。其の際、父兄と先輩との板挟みになつた子息は、勢ひ煩悶しなければならぬ。けれども若し如何しても、生活に窮する恐れがあつても、文學者となりたいと決心すれば、文學者に志すも宜い。若し其の長所と天才とが此にあれば——唯此に注意しなければならぬとは、自分の長所に對する誤解と處世の知識が僅少なことである。自分は、何處迄も文學者たるべき天才がある、と自信しても、實際、其の作品が極めて貧しいものもある。到底優

秀な文人となる見込がない。左様した状態にあり乍ら、尙ほ文人にならうとするのは、大なる誤謬である。それに、文人生活は、他の生活に比較すると、一層切詰めなければならぬ事情が多い。之れが又た一個の難關である。之等の事も亦能く考へなければならぬ。唯、空漠たる妄信や、己惚のために、職業の選擇を誤つて、一生取返へしの付かぬ破目に陥らないやうにせねばならぬ。

選擇の呼吸

諸君、

職業の選擇は、一生の大事である。諸君の運命を決する問題である。世の中には、極めて聰明な學生であり乍ら、一時の虛榮心に驅られて、他日の大臣たらんことを夢想し、自分が理學者としての長所を有するに

關らず、政治家たらんとするものがある。理學者となれば、優に第一流に位するものを、政治家たらんとするがために、第三流の陣笠に位しなければならぬ。之等は、一生の損失ではあるまいか。世の中には、斯うした類が甚だ多い。

私の畏敬するX博士は、文學者として、立派な地歩を占め、其の主宰する雜誌に毎月發表される論文は、奇警痛快見識天晴のものである。加ふるに其の品性も高く、性格も清い。X博士を崇拜する人々は、博士が議政壇上の人たらんことを熱望して、頻りに代議士に推薦しようとしたが、博士は、超然として之に應じなかつた。之れ博士が、自己の長所を理解して居るからである。博士は、靜の人であるが、動の人ではない。俗氣多き政治家の間に起つて、紛々たる政争の渦中に、竦腕を揮ふのは、其の得意とする所ではないのである。若し進んで此の渦巻の間に投

入すれば却て博士の短所を曝露して、其の威信を減ずるかも知れない。聰明な博士は、乃ち超然として、議政壇上の人たるを欲せず、寧ろ之を俯瞰する態度に出たのである。職業撰擇の微妙な呼吸は、斯うした點に存する。

長所を自覺せよ

諸君、

諸君が中學を出る前に、第一に其の長所と嗜好とを自問自答されたい。而して之を友人に話し、父兄先輩にも相談して、徐ろに其の職業を決定するやうにされたい。宇宙に於ける引力の理法を發見したニュートンは、最初から理學者たるべき素質を有して居たが、彼の母は、之れを思はないで、農夫たらしめようとした。若しニュートンが農夫とし

て生活したら、恐らく無名の田舎漢として終つたかも知れない。之れ彼の短所なるが故である。幸ひにも彼の叔父が、其の才能を認識して、母に説いて、ケムブリッジなるトリニチー大學に入らした爲め、其の長所が快く發達して學界に偉大なる貢獻を齎らしたのである。

ニュートンのやうに早く其の長所を認められて、之に適應した職業に従事したものは幸福であるが、地理學者伊能忠敬の如きは、五十歳迄家業に齟齬して漸く隆運に向はせてから、初めて其の好む所の學問に志したのである。若し忠敬が、最初から其の長所に適應した學問を研讀し、地理學者として努力したら、二三倍の收穫を得たことであらう。

人事は總べて豫期の通りには行かない。それに中年以後になつて、初めて自分の長所に氣付いた者さへ、英雄の中にもある。従つて一層の沈思と熟慮とを要する次第である。

社會に需用多き學問

諸君、

職業選擇に就ては、尙ほ就職難に關連したもので、多少注意すべきところがある。此の一點に就て、私は、左程重きを置かない。或識者の説く所によると、社會に需要ある學問を擇べよと云ふのである。成程、一應は最も千萬であるが、如何に社會に需要があつても、常人の長所が、其の方面に適應しない時は、却てツマラぬ結果を見るであらう。それも自分の長所を犠牲にして、生活難を切抜けようとするならば、自ら別である。

私は、總べての學生諸君が、其の長所を思ふ儘に發揮して、人物として傑出せんことを望んで居る。生活問題に威赫されて、心ならずも、需要

ある學問なればと云つて、其の短所に付くやうなことを痛ましく思ふのである。同時に之に依て、さらぬだに平凡化した社會は、平凡のドン底に陥らんことを憂慮するのである。平凡は、私等を惱ます單調な惡魔である。

落伍者となる勿れ

諸君、

就職難は、恐らく諸君の純潔な心にも、或杞憂の印象を與へて居るかも知れない。識者も亦頻りに之を論じて居る。それに就て、私は斯う云ふことを想起した。話に聞くと、英人の一團は、彼の殺風景なボルチオのラブアンや、沙漠の中のカルツームで、ホイスキソーダを乾盃し乍ら、勇ましくロング、リブ、ゼ、キングを高歌して、颯爽たる意氣を示して居

る相である。天涯地角、行くところとして、彼等の新故郷がある。就職難の叫び聲は、斯うした意氣を以て解決する他はないであらう。少くとも其の一策として――

私等は、群衆心理の法則に支配され易い。習慣の惰力に導かれ易い。官局萬能の今日は、何でも官吏にならうとする。それに落第したものは、實業家、學者、新聞雜誌記者、辯護士等になりたがる。斯う云ふ風に、世間で差別的に價值付けた職業の中で、成るべく高く上品に見られる方へ行かうとするのである。斯うなると、精撰に精撰を加へられるから、相當の秀才も、往々、落伍者たるの不幸を見るのである。悲むべき現象である。

新職業を發見せよ

諸君、

今日に於て、諸君が他日の大なる發展を希望するならば、其の職業を海外に於ける天涯地角に求めて第二のセシール、ロイズたるべしである。我邦人は、稍もすれば、故國に愛着する癖がある。素より愛郷心は、永久に保たねばならないが、其の職業は、宜しく之を世界の際涯に求むる勇氣がなくてはならぬ。

若し右の方策を執らないとすれば、從來、何人も着手しない新職業を發見して之を開拓してゆくより他はない。世人が鶻の目、鷹の眼で、種々の職業を追求しつゝあるのは事實であるが、それでも仔細に考察すれば、必ずしも未開の地がないとは云へぬ。此の方面に進むも亦痛快であらう。

それでも諸君の中に、右の二つの道を辿ることが出来ないとするれば、

止むを得ず、需要の多い方面に關する學業を修めて、卒業匆々、衣食にあり付けるやう用意するの他はない。之は極めて姑息な方法であるが、之に依て就職難だけは、切抜け得るであらう。

結局は、勇氣の問題である。勇氣のあるものは、如何に就職難の潮勢が、ヒタ／＼と押寄せても、自ら新方面を開拓して行くにちがひない。勇氣のないものは、勇者のために壓倒されて、敗北者として殘存するに止まるであらう。若し勇氣があつて、着眼點が宜ければ、何時如何なる場合にも、心配を要しないであらう。私は、實驗上から左様信ずるのである。

"For there is a Perennial nobleness, and even sacredness, in Work. Were he never so benighted, forgetfull of his high calling, there is always hope in a

man that actually and earnestly works : in idleness alone is there perpetual despair.

第二十二 新生面の開拓

敬愛する諸君、少し氣が早いかも知れないが、私は、假りに諸兄が其の熟慮の結果、愈よ將來執るべき職業を決定されたと假定して、此に其の大體に於ける私の希望——各方面の職業に就て——を述べたいのである。總べての事業は、停滞することを許さない。始終、後から進んで来る清新な諸君の刺戟と努力とに俟つ所が多い。現在、社會の各方面に於て、相當の地歩を占めつゝある中年以上の人々は、若い時のやうに、激漉たる新しい思想と考へとが全く無くなり初めて居る。或は既に無くなつた人もあらう。曾て急進的色彩が鮮かであつたものが、今は保守の色に變らうとして居る。其の結果は、社會の人文を沈滞せしめ、進歩を遅緩ならしめる。乃て後から現はれた活氣ある青年の一團が、

腐敗沈滞せる空気を拂ひのけて、目醒めるやうな新生面を開かねばならない。昔からの人文史は、此の法則を繰返して居る。

政治家志望者へ

政治家たらんとする諸君、私は、此に簡単に卒直に、私の希望を述べたい。諸君、我等が中學時代は、政治思想に就て、何等の開發をも受けなかつた。政治は、教育とは没交渉であるかのやうに取扱はれた。従つて政治に對する興味は、自動的に生起しないで、之を閑却したことが久しかつた。私は、何日も之に就て憤りの心を抑へることが出来ない。學生を盲目たらしめて、政治に對する觀察と興味とを引起さしめまいとしたのは、所謂藩閥政府の策略であつた。私等は其の犠牲となつた。けれども今後の社會は、長く盲目にされては居ない。政治思想は、

漸く一般的に瀾漫せんとして居るのである。

諸君、此の機會に乗じて政治家たらんとすることは、甚だ好望と云はねばならぬ。而して諸君の爲すべきことは極めて多い。現在の政治に就て、全然之を非難することは出来ないが、又た改革を施すべき點が少くない。第一は、藩閥政府の後繼たる官僚王國を覺醒せしめて、健全なる政治を布かしむるか、或は之を退去せしめて、在野政黨の首領をして、剛健なる内閣を組織せしむるかが問題である。處が現在の屬吏諸君の中に、眞骨頭を有し、雄大な政治的規模と高潔なる理想とを、政治上に實現せんとする氣魄實力ありやと云ふに、チト疑はしいのである。故に諸君は、オフキシャルドムに取つて代つて新しい善政を實現しなければならぬ。次ぎに

(一) 今の規則づくめの教育を刷新する事

- (二) 内政のコセ／＼した點を除く事
- (三) 外交の規模を雄大ならしむる事
- (四) 財政の基礎を健實ならしむる事
- (五) 商工業の積極的進歩を計る事

其の他、刷新を加ふべき方面が甚だ多い。諸君が、オフィシャルドムの一員とならざる以上は、斷じて右の刷新を執行せねばならぬ。それに就て特に千古を洞觀する達識を養ひ、所志を斷行する骨力、氣魄を作り、且つ一家の内政に就ては、全然顧慮しなくとも宜いやうに準備して置く必要がある。政治に依て利を得るのは最も危険であるから、此の誘惑に囚はれぬよう、慎密の注意をせねばならない。之れ私が諸君に對する希望である。

實業家志望者へ

實業家たらんとする諸君、私は、此に簡單に卒直に私の希望を述べたい。私は、實業に對しては、一個の門外漢である。けれども日本が世界に於て、貧乏國の地位にあることを痛嘆して居る。それには、實業の振興を計らなければならぬが、差當り、今後新しく進まんとする諸君は、士道を實業の上に具現せんことを心がけていたゞきたい。商業道德の不振は、取りもなほさず商業の不振となる。眼前の利に着眼しないで、永遠の大利を思ふものは、士道を守つて、之を實業の上にあてはめなくてはならぬ。濫澤男が「論語」の精神を實業に適用しつゝあるのは、即ち右の必要を知つて、其の模範を示さうと思はれたのであらう。我國の實業家が、濫澤男のやうに「論語」の眞趣を發揮するやうになれば、も少

し國の富を増加することになるであらう。

諸君、我國の實業家は、世界的に有利な事業を、大規模の下に行はうとする膽氣と遠圖とを缺いて居るのが多い。或少數のものが、僅かにそれに近い働きを示して居るに止つて他は、小規模の下に割據睥睨じつゝある。私は、モルガン氏に全然敬服するものではないが、彼が米國の經濟界に活動して、石炭、トラストの長となり、鐵道、トラストの長となり、終に二十一の大會社の支配人となつた雄大な遣り方に感心せざるを得ない。日本の實業界には、モルガン氏の脚下に辛らうじて近付き得る位のものあらう。彼と比肩する丈の實力手腕を有するものは一人もない。此の缺點は將來、諸君に於て補充されねばならぬのである。私は、諸君に向つて切に之を期待する。

文人學者志望の人々へ

文士學者たらんとする諸君、私は此に簡單に卒直に私の希望を述べたい。私は學者ではありませぬ。文士と云ふ程の識見才能もありませぬ。けれども私は、諸君の中に於て、若し相當の財産を有せず、文士たらんとせらるゝ場合は、切に勸告したい一事がある。廣義に於ける文學は別として、純文學に於て身を立んとするには、豫め生活の保障について考へなくてはならぬ。文學は、到底、不生産的のものである。殊に俗衆の趣味を眼中に置かない高尚な文學は、今後、益々貴族的にならうとして居る、高踏的に傾かうとして居る。又た左様した高い態度を以て一貫しないと、優秀な文學を生産し得ないのである。其の代りに讀まるゝ範圍に制限があるから、之に依て充分なる物質的報酬を得

られない。ともすれば、生活難の犠牲となるであらう。乃て何か生活の保證を得て、靜かに高踏的に文學のために努力しなくてはならぬ。

學者として起つには、總じて世界の學界に貢獻すべき獨創的發見をせねばならぬ。現在、博士として活動しつゝある學者は、可なりにある。けれども或一部を除いては、何等の新發見をも提供しないで、唯、歐米の學者が唱導する所を、蓄音機式に祖述して居るに過ぎぬ。それで僅かに創見のやうに見せかけて、一時を糊塗するものすらある。毎月主要な雜誌に現はるゝ論文を見ても、内容に乏しいのが多いかの如く見える。極言すれば、日本の學術は、半ば摸倣の状態に彷徨しつゝある。僅かに醫學、理學、工學に於て Originality の片影に接するのみである。此の點に於て、將來、諸君の莊重周密なる研讀に俟つ所が甚だ切なるものがある。而して之は、文學に於ても亦同様である。

教育家宗教家志望者へ

教育家、宗教家たらんとする諸君、私は、此に簡單に卒直に私の希望を述べたい。私は教育宗教に於て、全く門外漢である。けれども現代の教育に對しては、咒咀の聲を揚げざるを得ない。穎才兒も、凡才兒も、之を劃一主義の下に教育して、快活自由の趣がない。各個人の特長の長所を發揮せしめようと心がけない。加ふるに煩瑣な試験制度に依て、拙劣な機械的な注入教育に依つて、青年の元氣を消磨せしめ、一種の去勢術を施しつゝある。斯くの如き教育は、寧ろない方が宜い、ある丈それ丈有毒である。此の點に對しては、根本的刷新を加へなければならぬ。之れ諸君の任務である。

宗教の不振に就ては、今更之を繰返へす必要はない。科學萬能思想

の蔓延せる現代に於て、過去の宗教の權威を、國家的に説き、或は科學的に強めてゆかうとするに關らず、青年の多くは無信仰、懷疑の狀態にある。之れ喜ぶべきか、吊すべきか。何とも斷言し得ないが、現代人に適應して偉大なる新宗教が現はれない以上は、四分五裂の下に、傳統的信仰を維持する人々はあつても、新しく進んで在來の宗教に依らんとするものは、比較的少くはあるまいか。従つて今後、宗教家とならんとするには、深き慈眼愛腸を要するに止らず、新しい宗教を打立て、ゆく丈の氣魄、勇氣、圓滿なる知情意の働きを要する。之れ非常なる困難ではあるが、又た其處に努力の仕甲斐がある。須らく健闘に次ぐに健闘を以てしなくてはならぬ。私は、之を諸君に期待する。

農業家志望者へ

農業家たらんとする諸君、私は、此に簡單に卒直に私の希望を述べたい。私は、農業に就ては、全然、門外漢である。けれども、少年の時分から「農は立國の本なり」と云ふことを聞いて居る。現に農業立國を唱へて居る名士も見受けられる。其の位に農業は重く視られて居る。唯、都會の人々は、農業の狀態を知らないの、一概に卑く見て居るが、決して左様でない。佛蘭西が金力に於て、特に傑出して居るのは、其の田舎の農民に負ふ所が多いのである。普佛戰爭の結果、佛軍敗れて五十億法の償金を獨逸に支拂つたが、それは雞卵を以てした相である。即ちそれは小農業家の貯蓄から得たとの意味である。農業家たることは、眞摯な男兒の愉快とする所であらねばならぬ。

唯、日本の農業に於ては、科學の應用が未だ充分に行はれて居ない。規模も亦小さい。之等は、刷新して、總べて文明流にやらねばならぬ。

それに農業家は、一國元氣の半ばを負うて居ることを自覺して、剛健華實の風尚を發揮されたい。さすれば、日本の農業は從來に比して目醒ましい進歩を現はし、富の積蓄をも増加するにちがひない。之れ私の切に希望する所である。

新聞雑誌記者たらんとする人々へ

新聞雑誌記者たらんとする諸君、私は、此に簡單に卒直に私の希望を述べたい。私も曾て新聞記者、雑誌記者の境涯を踏んで來た。今も尙自身で出版界と云ふ小さい雑誌——之は讀書家の便宜を計るために發行したのである——を主宰して居る。従つて新聞雑誌記者の表裏にも、少しは通じて居る。

新聞雑誌記者は、矢張文學者と同様、生計の點は、實業家ナゾに一步を

譲らねばならない。即ち其の勞力を要する割合に報酬が少いのである。物質慾の強い者は、到底新聞雑誌記者になれないであらう。唯、健實な中流生活を營むと云ふことを以て満足せねばならぬ。其の代りに、其の職業は、壯快である。即ち言論の力を以て、社會の輿論を作り出し、一國の元氣を振作することが出来る。假令、主筆とならず、社長とならず、編輯長とならないでも、人文の發展に就て、各自相當の力を盡し得る事は明白である。世間の固陋な人は、新聞雑誌記者を輕視し、畏憚しつゝあるが、之等は、世が進むと共に、絶無に歸するであらう。而して新聞雑誌記者の勢力は、年一年、重く見らるゝであらう。

けれども此に除外例がある。新聞雑誌記者の一部分には、存外學問に乏しく、人格の野卑なものがある。斯うした少數のものゝために、一般の新聞記者が誤解されるゝことが多い。此の點に就て、諸君は、世の誤

解を排除するようには、人格、學殖の修養に熱中しなくてはならぬ。之れ逸すべからざる重要點である。我國では、追々、信望あり、識見ある博士や、名士を雑誌主筆として戴くやうになつたが、之と同時に、其の下にあつて、實際の編輯に當る記者が、矢張、識見を備へ、品位を高くすることが、一層、肝要である。此の事は、新聞記者にも適用して宜いと思ふ。私は、微力なるものであるが、諸君と共に努力してゆきたい。而して諸君と共に、向上の方法を講究したい。

人文史上に新紀元を作れ

諸君、

私の希望は、余りに抽象的で、漠然として居るかも知れない。けれども私は、具體的に細かい希望の箇條を述べるよりも、輪廓だけ示して、他

は聰明なる諸君の自助自奮に待つことを欲するため、細説しないのである。それに、私は總べての職業に通じて居ない。宜い加減に一時を糊塗することを好まぬから要領に止めて置いたのである。

諸君、

現代の政治も、實業も、宗教教育も、學術も、文藝も、農業も切に諸君の刷新を加へんことを翹望しつゝある。之等は、清新な考へと、不斷の活力ある諸君に依て、新生面を開かれるのである。若し諸君が一齊に活動すれば、現代の人文は、一新紀元を劃せらるゝに至るであらう。私は、光輝ある諸君の前途に囑望する。

“A Splendid protection for a youth, When he leaves school and home and goes out into the World, in a great purpose.”

第二十三 獨立して事業を開始せんとする青年へ

Y君、

御手紙難有く拜誦いたしました。昨今の寒さには、萬年筆を握るさへ物憂く思ひますが、恰度書きかけた原稿があるので、其の後を續けるため、午前中は執筆、午後は入浴、散歩、讀書。夜に入つて又た少しばかり萬年筆に親むことに致して居ります。

御手紙に依ると、貴兄は、早くから獨立して事業を開始したいと望んで居られた相ですが、父兄にも御異存がないと承つて、甚だ喜ばしく思ひます。貴兄の如く、不羈獨立の氣象を有せらるゝ才人が、好む所の事業を開始されたなら、必度、好結果を收めらるゝことと信じます。私は、

双手を揚げて賛成する一人であります。

獨立に適當なる人物

Y君、

從來、多少教育を受けたものは、直ぐに月給取にならうとする傾向があります。現在でも矢張、同様に見えます。私は、それを悪いとは云はないのです。けれども總べての青年が月給取にならうとすれば、勢ひ希望者が充溢して、椅子にあり付けないものが澤山出來ます。高等遊民の多くは、此に生ずるのです。之は甚だ智慧のない話です。

若し月給取以外融通の利かないものなら、誠に止むを得ませぬが、月給取にならなくても、獨立して新たに事業を開始してゆかうとする氣魄のあるものは、全然、月給取たることを斷念したが宜いと思ひます。

由來、私は人に使はれるのが嫌ひなために、何日か獨立したいと渴望して居りました。けれども其の機會が容易に塾しないのです。それが何よりも苦痛なので、到頭、思ひきつて獨立して、小さい事業を創始しました。而して如何にか行けるやうになりました。

人一倍の骨折

Y君、

月給取になると、多少の氣苦勞はあつても生活上の不安は少いのです。それに損失を招くことは斷じてありません。處が新しく事業を開始するに當つては、それが前途有望のやうに見えても、思はぬ損失を招くことがあります。私の知人某は、賣藥業の利益多きを認めて、或繁華な場所に開業したのですが、一日に二三人の客しかないので、半年の

後維持に堪へず閉店しました。賣藥業は、確實な有利な性質を持つて居ても、商略に馴れないと、矢張損失に終ります。

若しそれが從來、何人も試みない新事業であると、一層見當が付かぬますから、最初から心を悩まさねばならぬのです。それを完成する迄には、人一倍の骨折を要します。即ち月給取の安全に比較すると、頗る不安です。

けれども既に事業を開始するからには、何人も相應の自信があるのです。それを動搖させずに行く事が出来たら、假令連敗しても、萎縮せず済ませよう。強固な自信！それが何よりも大切であります。

有力な無形の資本

Y君、

事業を開始するに當つて、第一に自信、第二に資本を要します。之は澤山な程、宜いのですが、或有力な實業家の説を聞くと、大資本か、小資本かが一番宜い。其の中間にある時は、却て油断して、失敗すると云つて居ます。従つて小資本を以て、正確に着實に初めるのが適當でありませう。

今日、世界の巨富を以て稱せらるゝ人々も、最初から潤澤な資金があつて、初めて事業を開始したのではありませぬ。自信を以て、小資本から初めたのが多いのです。テバートメント、ストアで成功したワナメーカーは、小資本を以て呉服店を初めたのですが、終に米國十富豪の一人となる迄に仕上げました。それには、無形の資本も手傳つて居るのであります。

無形の資本！ 之は或場合に有形の資本よりも功力があります。ワ

ナメーカーは金銭以外に於て、貴重な資本を持つて居たのです。其の第一が健康。第二が善良な習慣、第三が義務に關する勇氣、第四が明快な頭腦、第五が節儉を守る克己力、即ちそれです。之に依て、ワナメーカーは、自分の有する金銭よりも、大なる信用を得て、いろ／＼の便宜を與へられたのです。して見ると、資本の多少は、さして問題にならないかも知れませぬ。即ち小資本を以てしても初め得ると同時に、成功し得ることゝ信じます。其の大體に於て――

窮境に沈む覺悟

Y君

既に多少の有形、無形の資本と、自信力とを以て、時勢に適合した事業を開始しても、廣く其の存在を認識するゝには、非常な努力を要します。

ライオン齒磨と云へば、今日は、誰知らぬものもありませぬ。けれども前店主たる創業者小林富次郎氏の苦心は、非常なものでありました。氏は、其の齒磨の優秀なる性質を持つことを信じて、日本全國の化粧品店へ見本を送つたのですが、續々返却して來て非常に損失を招きました。乃て一策を案出して、廣告樂隊を雇ひ入れ、全國にライオン齒磨の事を廣告させて歩いたので、當時、其の遣り口の嶄新な點が注目を惹いて、漸く販路が開かれ、到頭、今日の盛況を見るに至つた相であります。凡そ新しい有利な事業でも、一般に知られて、相應の基礎を作る迄には、一蹶跌を來たしたり、閉店せねばならぬ程の窮境に陥つたりします。けれども自信さへあれば、斯うしたことも亦堪えらるゝのみならず、時としては、此の困難と戰ふことが、愉快に思はれます。而して首尾能く之を切抜けた時の氣持は、何とも云へぬ程に痛快です。

勤儉の要

Y君

獨立して事業を開始したとすれば、體裁に頓着せず、勞力を惜まらずに働くことが必要です。假令、薄利でも、遠方まで出かけて、眞黒になるのをかまはぬやうにしたいものです。それから身の廻りも、質素にして、資金があれば、事業の方へ投ずるやうになさい。兎角、我國では、昔の習慣に制せられて、米國流に體裁をかまはずに働くことを好まないのです。中學卒業生の中にも、此の傾向を有するものは、假令、有望の事業を初めても、根底から改めない以上は、成功しないのであります。

朝から晩まで勞力を惜まらずに動いて、節約した生活を送つてゆけば、年一年、其の事業は、地歩を占めて行くやうになります。但し一方に於

て、健康を保持しなければなりませんから、働いた後で、元氣の補充をせねばならぬでせう。歐米の實業家は能く働くと共に又た能く健康の法則を守つて居ます。

唯一の政策

Y君、

日本の實業家は、ともすると「商略」と云ふことを喧しく云ひますが、私は、それを不必要と思ひます。唯「誠實」でさへあれば、先方の信用を博して、次第に重んぜらるゝやうになります。

貴兄は、多少事業上の經驗を有して居らるゝてせうが、未だ「商略」と云ふことには、馴れて居られまいと信じます。けれどもそれは憂慮するに及ばぬのです。「誠實」を以て相手に對すれば、それが眞の「商略」よりも、

偉大な効果を齎らします。米國銀行業の傑物ウィリアムは、成功の第一義を問はれて「神を畏るゝことです」と云ひました。之れ即ち「誠實なれ」と云ふ意味をも含んで居ます。神を畏るゝものは、人を欺かず、誦詐を行はず、少しも表裏がありません。假令、事業に馴れないでも、斯うした、長所があれば、自然、敬愛さるゝものであります。私は、眞面目な貴兄に對して、甚だ分り切つたことを申し上げました。それは、貴兄が此の一年後に於て、新しい事業を開始さるゝことを思つて、喜びの餘り、ツイ餘計なこと迄口にしたのであります。此の點は、切に寛容を求めます。社會の趨勢は、就職難を來たし、中學又は私立大學を出たものが、本屋を初めたり、炭屋となつたり、文房具店を開始するやうなことを二三、耳に致しました。此の傾向は、近き將來に於て著しくなりませう。貴兄が眞先に此に着眼されたのは結構です。私は、貴兄の前途を祝福いた

します。

“The geniuses of the World are outnumbered by the commonplace men; as, in a grainfield, the flowers are outnumbered by the Wheat ears. Where is the place for the average man? To answer in a sentence, it is where he can use his strength and intelligence to the best advantage, and enjoy doing it.”

第二十四 海外へ赴かんとする青年へ

B君、

過日、御送附下さいました「海外發展論」は極めて有益に拜見いたしました。之は、貴兄が平素の御持論で、近き將來に實現されること、喜悅に堪へぬのです。徳川幕府の鎖國政策は、甚だしく我國民性の長所を傷けました。本來、我祖先是、移住性を有し、海外に遠征するのを好んだのであります。今日の人達のやうに、内地に嚙り付いて、海外に赴くことを厭ふやうなことは、爪の垢ほども見えなかつたのです。「人間到處青山あり、骨を埋むる、豈故郷の地のみならんや」の壯語は、我祖先の實行した所であります。それを思ふ毎に、私は、祖先の偉大と剛膽とを讚美したくなります。

内地に跼蹐するの不利

B君、

交通の發達は、今や世界各国の間に於ける距離を短縮しました。ロンドンへ行くのは、先づ朝飯前の仕事に近いと云つて宜いでせう。それに汽車、汽船の設備も、日本よりは外國の方が整うて居るのですから、何處へ行くのにも氣樂なものであります。今更、臆却がるには及ばぬのです。

それに時勢の必要上有爲なる青年は、海外に於て、其の伎倆を揮はねばならぬやうになつた。日本人は、繁殖力の強い國民です。統計に依ると、我國の人口は、四十年間に二倍となるやうです。今日は、五千萬の人口であるが、大正四十年頃には、一億萬以上に増加するてありませう。

既に今日てさへ、職業を求むる人間が、あり餘つて、ウヂ／＼して居る始末です。此の際、内地に跼蹐して、一個の椅子を、二三十人も群つて、競争するのは甚だ損てあります。加ふるに交通の便が開けて居る以上は、貴兄の御説の如く、海外へ展びることを、第一の得策と致します。

如何に有利なる乎

B君、

之は、何日か雑誌で見た話ですが、或私立大學生が、半途で學校を廢めて、亞米利加へ赴きました。而して數ヶ月を経てからの消息によると、彼は、米國に到着するや否や、製板所とかに雇はれて、一日一弗九十錢の支給を受けて三週間働き、次ぎにシヤトルに赴いて或店の賣子に雇はれ、食はせて貰つて、毎月四十弗宛給與さるゝことになりました。日本

に於ては、夢想だも出来ない事です。勿論、總べてが此様なに都合よく搬ばぬかも知れませぬが、それでも先づ之に近い地位は得られるやうです。必竟、早く米國に渡つたのが、彼の利益でありました。

海外へ赴けば、直ぐ金塊にてもあり付けるやうに思ふのは、甚だしい誤想ですが、如何なる場合にも、内地に居るよりは、有利であることだけは明確であります。

濶大の氣象

B君、

海外に赴いて働くことは、物質上の報酬から云つても、職業にあり付ける點から云つても宜いことですが、又た精神上に及ぼす利益も少くないと思ひます。幼少から島國的空氣の間に育てられると、勢ひ濶大

な氣宇に欠けざるを得ない、狭い意見に囚はれて、發達を妨げます。

けれども海外に赴いて、新しい天地を見れば、先づ疲勞した心身に活氣を與へられます。それに各國人の異つた風俗、人情、習慣、特性を見ると、眼界が廣くなつて、之に親みを感じると、四海兄弟の感想を、シミ／＼味ふことになるでせう。斯うして濶大の氣宇を養ひ、見聞を廣うすると、今迄島國の中に跼蹐して、小さい夢を見て居たのが、急に覺醒されて、人格の上に重味を加へるであります。此の點から見ても、海外へ赴くのは利益が多いのです。我國に於ける物質文明は、大抵歐米を歴遊した人々に依て、齎らされた收穫であります。

永住の精神

B君、

海外へ赴く利益は、既に明白であります。唯、此に我國の人々に就て、豫め反省を求めなければならぬことがあります。第一は、海外に永住する覺悟で行くことです。英人は、到る處に、新故郷を作つて、最後の呼吸を其處で引取ります。我は、一個獨立の男兒である、と云ふ信念が、其の腦底にあるので、熱帯にも、寒帯にも、恐れなくて、自家の運命を開拓し、印度の大部や、アフリカの南端に、地球の色を變へるやうな痛快なことを實現します。私等も、此の英人の氣風に學ぶ所がなければならぬ。而して海外に於て、一度見込が立てば、米國に於ける葡萄王長澤鼎氏の如く、四十六年間も、其處に踏み止つて、我日本のために、百年の長計を劃することが必要であります。即ち最初から海外に、新故郷を建設して、其處に骨を埋める覺悟で行くべきであります。

日本人としての欠點

B君、

海外に於ける日本人に就て、私は、折々喜ばしからぬ風聞を耳にしませす。之を箇條書きにすると、

第一 言語から來る不利

第二 習慣の差異から來る不利

第三 歐米人士が日本を了解せず、輕侮するより來る不利

です。之は幣原博士の説く所です。平凡ではあるが、適切です。之等の不利を排除することが、當面の務めです。歐米の言語に馴れないと、如何しても意志の疎通を欠きます。それに我同胞は、幾分、遠慮氣味なために、無愛想に見えるのです。習慣に就ては、裸體の行水や、種々の惡

い癖が、歐米人の悪感を挑撥するのです。それに彼等は、尙ほ黄色人種を輕侮して、共に肩を列べるのを恥辱として居るから——教養ある紳士を除く——面倒です。之等の支障は、些細なやうて重大な關係がありますから、彼等の迷夢を一掃するやうに努力せねばならぬのです。

如何なる方面が有望か

B君、

海外に赴く方面は、東西に分れて居ます。我内地人を基礎として云へば、我國の殖民地たる臺灣、朝鮮の如きも、海外です。けれども此の方面は、今茲に述べない。主として歐米に就て考へたいのです。

大隈伯は中米、南米を以て、最も有望なりとして居られる。伯の説に依ると、中米、南米は、地廣くして人が少い。日本の五千萬位の人口は、ソックリ持つて行つても開拓し切れぬ程である。其の土地の廣さは、今の膨脹日本の五六十倍は、慥かにある。氣候風土も亦左様に氣にかける程ではない。南米に於てはアルゼンチン、中米に於ては、アンデス山麓の邊が地味肥えて豊かである。遣利は、到る處に、有爲の青年の來るを待つて居るのであります。

現在、南米に於ては、ブラジルに二千人、ベルに六千人の同胞が移民として赴いたが、それが又アルゼンチンの勞銀が高いのに垂涎して、其處へ數百人流れ込んで居る。チリにも、二百人ばかり移つたさうです。此の中、ブラジルとベルとは、日本移民を歓迎しつゝある。アルゼンチンとチリとは、歓迎する程ではないが、さればとて排斥もしない。故に南半球は、同胞の意の動く儘に赴いて、充分活動することが出來ます。

南半球へ

B君

私が間接に知れる二人の青年は、南米に赴くと云つて居たが、家庭の事情に制せられたり、或支障のために意氣沮喪して中止して了ひました。私は、それを他事ならず残念に思つて居ります。若し遠い所へ赴くことの出来ないものは、朝鮮、臺灣、樺太等へ行くより仕方がありますまう。

貴兄よ、雄偉なる氣象を持つものは、須らく南半球を横行濶歩すべしであります。攝生を嚴にすれば、其の氣候は、決して恐るゝに足りない。而して或場所に定住して、目的の事業に着手して、不斷の活動を持續すれば、南半球に於ける日本人間の名物男として、立派にやつて行けると

思ひます。南半球へ南半球へ!!!

私は斯く叫びます。若し有爲な青年諸君が貴兄と同じく、海外に雄飛さるゝならば、就職難や、生活難の心配は要りませぬ。又た日本も貧乏に甘んずるに及びませぬ。私は一日も早く斯うした喜ばしい時の到来を翹望して居ります。同時に貴兄が壯圖に上るゝ日を待ちこがれて居ます。失敬。

“Great hope make great men”

“He who would gather honey must bear the stings of bees.”

中學生諸君終

二七八

[不許複製]

大正元年十二月一日印刷
大正元年十二月五日發行

中學生諸君
定價十五錢

著者 高須梅溪

發行者 增田義一

印刷者 佐久間衡治

印刷所 株式會社 英秀舍

東京市京橋區南紺屋町十二番地

實業之日本社

電話八七四、八七五、八七六、八九九
郵便振替貯金口座 三二六

發行所

青年と修養

實業之日本社長

増田義一著

再版

天下廿萬の諸者より其の遭遇せる難問の解決を求めたるに對する著者の懇切なる解答書にして處世百般の最好指針書

價一圓五十錢 稅十二錢 上製箱入美本

英語熟達ノート

ポケット型 定價五十錢 郵稅六錢

優等學生勉強法

ポケット型 定價二十錢 郵稅四錢

實業之日本編

廿一版

岡田式靜座法は今や天下最良の保健法養心法として萬人の認むる所となれり、未知らざる者は速かに本書を見覽驗に浴せよ

定價七十錢 郵稅八錢 並製寫真入

岡田式靜座法

實業之日本編

實業之日本社發行圖書總目錄

史傳地理書類

- 農法學博士新渡戸稻造君著 山方香峯君著 十大德敎家傳 大版上製正價貳圓 金文字入郵稅拾貳錢
- 米國史 大版上製正價壹圓半 金文字入郵稅拾貳錢
- 偉人クロムウエル 大版上製正價壹圓 金文字入郵稅八錢
- 婦人の面影 大版上製正價七拾錢 郵稅八錢
- 山方香峯君著 一人近世人傑傳 大版上製正價八拾錢 金文字入郵稅八錢
- 山方香峯君著 一人近世人傑傳 中版並製正價五拾錢 全一冊郵稅六錢
- 報知新聞記者佐瀨醉保君著 當代の傑物 大版上製正價六拾錢 金文字入郵稅八錢
- 實業之日本記者石井白露君著 最近成功十傑 全一冊正價五拾錢 美本並製郵稅六錢
- 福田琴月君著 偉人の少年時代 大版上製正價六拾五錢 金文字入郵稅八錢
- 宮田千代君著 世界商業史綱 大版上製正價六拾錢 金文字入郵稅八錢
- 大隈伯序 福田琴月君著 世界偉人傳 大版上製正價壹圓半 全一冊郵稅拾貳錢
- 加藤政之助君著 滿洲處分 大版並製正價卅五錢 全一冊郵稅六錢
- 長谷川宇太治君著 渡清案内 中版並製正價卅五錢 全一冊郵稅四錢
- 市吉徹夫君著 地理と商品 中版並製正價廿五錢 全一冊郵稅四錢
- 大隈伯序 三宅有賀田中館博士遺懷文 天下の記者 大版並製正價五拾錢 全一冊郵稅八錢
- 讀賣新聞記者 松川次郎君著 南米と南洋 中版並製正價五拾錢 美本並製郵稅六錢
- 桑谷克堂君著 成功富豪の面影 全一冊正價五拾錢 美本並製郵稅六錢

實業之日本社編纂
●日富豪の家風 全一冊正價五拾錢
美本並製郵稅六錢

京都大學圖書館員 佐竹義繼君編
●幕勤王烈士手翰抄 上製金正價壹圓五拾錢
金文字入郵稅拾貳錢

前カラナン女學堂教頭 一宮操子女史著
●蒙古土產 大版上製正價八拾錢
金文字入郵稅八錢

直弟 加治木常樹君編
●西郷南洲書翰集 大版上製正價九拾錢
筆蹟入郵稅八錢

大隈 板垣兩伯序 東京毎日新聞記者鹿島櫻巷君著
●江藤新平 中版全一冊正價四拾錢
寫眞入並製郵稅六錢

兒玉 花外君著
●日本男兒 小版並製正價四拾錢
頗美本郵稅六錢

史詩 中尉著
●陣 四一六版正價六拾錢
全一冊並製郵稅八錢

●經濟產業書類

專修學校法政大學教師法學士工藤重義君著
●經濟財政要義 大版上製正價壹圓廿錢
金文字入郵稅拾貳錢

米國エグレストン氏著 蘆川忠雄君譯
●處世經濟法 中版並製正價四冊錢
全一冊郵稅四錢

米國イリー博士 クキツクワ博士共著
●經濟學提要 大版上製正價壹圓
金文字入郵稅八錢

米國ゼンクス博士原著 別府丑太郎君譯述
●產業合同論 大版上製正價八拾錢
金文字入郵稅八錢

商業學士小林行昌君 土屋長吉君共著
●中等經濟學 大版並製正價四拾錢
全一冊郵稅六錢

土屋長吉君著
●應用經濟學 大版並製正價四拾錢
全一冊郵稅六錢

淺井藤侃君著
●新農業經營 大版並製正價四拾五錢
全一冊郵稅六錢

宮入良右衛門君著
●經濟的育蠶法 大版並製正價廿五錢
全一冊郵稅六錢

カネギ翁著 伊藤重次郎君譯
●富の福音 洋裝並製正價四拾錢
全一冊郵稅六錢

川上善兵衛君著
●葡萄提要 大版上製正價壹圓十錢
金文字入郵稅拾貳錢

法學博士 天野爲之君新著
●經濟策論 菊版上製正價貳圓五錢
金文字入郵稅小包大錢

伯爵大隈重信君 烏田三郎君序 三宅盤君著
●都市の研究 上製正價七拾錢
金文字入郵稅八錢

●衛生書類

醫師武藤喜作君著
●家庭應急手當法 中版並製正價四拾錢
全一冊郵稅六錢

報知新聞記者 中村木公君編
●名家長壽實歷談 中版並製正價八拾錢
金文字入郵稅八錢

東京朝日新聞記者 杉村縱橫君著
●肺病全快談 中版並製正價五拾錢
全一冊郵稅六錢

農學博士 玉利喜造君著
●冷水浴の實驗と學理 中版並製正價廿五錢
全一冊郵稅四錢

萬朝報記者 中島氣輝君著
●禁酒禁煙の五年間 大版並製正價廿五錢
全一冊郵稅四錢

英國ノールン著 海嶽生譯
●思想健全法 中版並製正價四冊錢
全一冊郵稅四錢

蘆川忠雄君著
●心機轉換法 中版並製正價廿五錢
全一冊郵稅四錢

英國گرانウケル博士著 海嶽生譯
●簡易安眠法 中版並製正價廿五錢
全一冊郵稅四錢

英國گرانウケル博士著 海嶽生譯
●神經健全法 中版並製正價廿五錢
全一冊郵稅四錢

蘆川忠雄君著
●頭腦明快法 中版並製正價廿五錢
全一冊郵稅四錢

英國گرانウケル博士著 蘆川忠雄君譯
●最新記憶法 中版並製正價廿五錢
全一冊郵稅四錢

醫學士 樫田十次郎君著
●衛生十一ヶ月 小版並製正價四拾錢
全一冊郵稅四錢

慈惠醫學士 小田部莊三郎君著
●學理深呼吸法 小版並製正價貳拾錢
全一冊郵稅四錢

實業之日本社編
●岡田式靜坐法 菊版並製正價七拾錢
全一冊郵稅八錢

●商業實務書類

- 米國ウオルター・デー、ムッテイー著 堀内新泉君譯 大版並製正價五拾八錢
- 店頭新販賣術 全一冊郵稅八錢
- 金澤商業學校長中野觀象君編 島山觀成君書 和本習字正價六拾四錢
- 實用商業文練習帖 手本郵稅四錢
- 土屋長吉君著 中版並製正價廿五錢
- 商戰必勝 全一冊郵稅六錢
- 土屋長吉君著 大版並製正價五拾六錢
- 商工執務法 全一冊郵稅六錢
- カゝ子ギ一翁著 伊藤重次君譯 大版並製正價廿五錢
- 實業の鍵 全一冊郵稅六錢
- 前金澤商業學校長 永野耕造君著 上中下正價四拾五錢
- 商業修身訓 三冊並製郵稅八錢
- 中野觀象君著 大版並製正價四拾六錢
- 實用商業書信文範 全一冊郵稅六錢
- 商業學士 小林行昌君著 大版上製正價四拾五錢
- 英和商用文教科書 金文字入郵稅八錢
- カゝ子ギ一翁著 小池靖一君譯述 並製附錄正價廿五錢
- 實業の帝國 力翁評傳郵稅六錢

- カゝ子ギ一翁著 伊藤重次君譯 洋裝並製正價四拾八錢
- 富の福音 全一冊郵稅八錢
- 男爵前島密君序 澤村菊池兩君共著 大版並製正價五拾八錢
- 國民實業指針 全一冊郵稅八錢
- 藤岡秀太郎君著 大版並製正價五拾六錢
- 商品と其荷造法 全一冊郵稅六錢
- 惣崎貞夫君著 大版並製正價五拾六錢
- 生命保險提要 全一冊郵稅六錢
- 市吉徹夫君著 中版並製正價廿五錢
- 銀行と會社 全一冊郵稅四錢
- 土屋長吉君著 中版並製正價廿五錢
- 最新販賣術 全一冊郵稅六錢
- 土屋長吉君著 正上製八拾五錢郵稅 並製七拾錢各八錢
- 最新商業要綱 價
- 土屋長吉君著 上下二冊正價四拾八錢
- 簡易商業學
- 宮田千年君著 大版上製正價六拾八錢
- 世界商業史綱 金文字入郵稅八錢
- 男爵後藤新平君序 西村正雄君著 袖珍上製正價六拾六錢
- 最新事務法 金文字入郵稅六錢

- 商業學士小林行昌君 下平精一君共著 大版上製正價壹圓廿錢
- 英國商業實務 金文字入郵稅小包三錢
- 實業之日本記者 都倉義一君著 大版並製正價七拾八錢
- 最新式記帳法 全一冊郵稅八錢
- 中野觀象君著 大版並製正價廿五錢
- 改良單式簿記 全一冊郵稅四錢
- 千代田生命保險會會計課長 與石丑太郎君著 大版並製正價廿五錢
- 利廻早見表 全一冊郵稅四錢
- 近江屋質店員 奥村喜一郎君著 和裝全一冊正價廿五錢
- 新實業讀本 冊美本 郵稅四錢
- 五十嵐次郎君著 上製正價八拾八錢
- 最新商業算術 金文字入郵稅八錢
- 中野觀象君 高間昭君共著 大版並製正價五拾八錢
- 新商業書信活法 全一冊郵稅八錢
- 竹内正太郎君著 正上製八十五錢郵稅 價並製七十錢各八錢
- 商業簿記獨習書 大版並製正價六拾六錢
- 竹内正太郎君 村塚玄君共著 全一冊郵稅六錢
- 最新商業簿記 中製並製正價廿五錢
- 市吉徹夫君著 全一冊郵稅四錢
- 地理と商品

- 朝鮮日日新聞社著 中版並製正價參拾五錢
- 百圓の渡韓成功法 全一冊郵稅四錢
- 桑谷克堂君著 全一冊正價五拾六錢
- 成功富豪の面影 美本並製郵稅六錢
- 西岡英夫君著 中版並製正價廿五錢
- 立身と繁昌 全一冊郵稅四錢
- 在米 柿西藤一郎君著 中版並製正價五拾六錢
- 米國の商店 全一冊郵稅六錢
- 前早稻田大學講師土屋長吉君著 大版並製正價五拾八錢
- 實踐會計整理法 全一冊郵稅八錢
- 品川卯一君著 袖珍並製正價貳拾四錢
- 最新賣出し法 全一冊郵稅四錢

●修養書類

●品性の勢力 大 版正價 八 壹 錢
 米國前大統領ルーズヴェルト氏原著 山崎梅處君譯述
 ●ルーズヴェルト全集 大版上製正價 八 壹 錢
 金文字入郵稅
 ●自助の精神 中版並製正價 卅 五 錢
 全一册郵稅 四 錢
 ●新自助 中版並製正價 五 拾 錢
 全一册郵稅 六 錢
 ●新武土道實話 上 製正價 八 拾 錢
 金文字入郵稅 八 錢
 ●健全なる常識 大版上製正價 八 壹 錢
 金文字入郵稅 八 錢
 ●沈着心修養 中版並製正價 卅 五 錢
 全一册郵稅 四 錢
 ●交際術修養 大版上製正價 八 壹 錢
 全一册郵稅 八 錢
 ●黙想 中版並製正價 卅 五 錢
 全一册郵稅 四 錢

●日常の言語 中版並製正價 卅 五 錢
 全一册郵稅 四 錢
 ●人格の鍛鍊 中版並製正價 卅 五 錢
 全一册郵稅 四 錢
 ●偉人修養の徑路 袖珍上製正價 五 拾 錢
 金文字入郵稅 六 錢
 ●奮闘吐血錄 中版並製正價 六 拾 錢
 全一册郵稅 六 錢
 ●意志の鍛鍊 中版並製正價 卅 五 錢
 全一册郵稅 四 錢
 ●讀心術修養 中版並製正價 卅 五 錢
 全一册郵稅 四 錢
 ●克己心の修養 大版上製正價 八 壹 錢
 金文字入郵稅 八 錢
 ●人格の光輝 大版並製正價 六 拾 錢
 全一册郵稅 八 錢
 ●樂天の勝利 大版並製正價 四 拾 錢
 全一册郵稅 六 錢
 ●新時代の青年 中版並製正價 四 拾 錢
 全一册郵稅 六 錢

●教育勅語要義 大版並製正價 卅 五 錢
 植村道次郎君著 頗美本郵稅 四 錢
 ●快活なる精進 中版並製正價 四 拾 錢
 全一册郵稅 四 錢
 ●人生の慰安 大版並製正價 五 拾 錢
 全一册郵稅 八 錢
 ●常識の修養 大版並製正價 五 拾 錢
 全一册郵稅 八 錢
 ●人生の奮闘 大版並製正價 五 拾 錢
 全一册郵稅 六 錢
 ●人生の妙味 大版上製正價 八 拾 錢
 金文字入郵稅 八 錢
 ●樂天の生活 大版並製正價 五 拾 錢
 全一册郵稅 八 錢
 ●品性の光輝 中版並製正價 卅 五 錢
 全一册郵稅 六 錢
 ●心機轉換法 中版並製正價 卅 五 錢
 全一册郵稅 四 錢
 ●不平慰安法 大版並製正價 卅 五 錢
 全一册郵稅 六 錢

●觀察力修養 中版並製正價 卅 五 錢
 全一册郵稅 四 錢
 ●雄健の氣象 中版並製正價 四 拾 錢
 全一册郵稅 四 錢
 ●自強術 中版並製正價 五 拾 錢
 全一册郵稅 六 錢
 ●決斷力修養 中版並製正價 卅 五 錢
 全一册郵稅 四 錢
 ●人格の修養 大版並製正價 卅 五 錢
 全一册郵稅 四 錢
 ●人格の鍛鍊 中版並製正價 卅 五 錢
 全一册郵稅 四 錢
 ●商才修養の實驗 中版並製正價 五 拾 錢
 全一册郵稅 六 錢
 ●成功青年立身訓 中版並製正價 卅 五 錢
 全一册郵稅 四 錢
 ●失敗の活用 中版並製正價 卅 五 錢
 全一册郵稅 四 錢
 ●自尊の修養 中版上製正價 八 拾 錢
 全一册郵稅 八 錢

藤原楚水君編
先哲座右銘全集 中版並製正價 壹圓
遺訓 全一冊郵稅 八錢

海老名正君著
新國民の修養 上 製正價 壹圓
金文字入郵稅 八錢

ルーズベルト氏著 山崎梅處松宮春一郎君共譯
奮闘の教訓 大版上製正價壹圓廿錢
全一冊郵稅拾貳錢

慶應義塾々長鎌田榮吉君著
養 大版上製正價壹圓廿錢
金文字入郵稅拾貳錢

日本女子大學校長 成瀬仁君著
獨立自尊 大版上製正價壹圓廿錢
箱入美本郵稅拾貳錢

手紙雜誌主幹 桑田春風君著
進歩と教育 大版上製正價七拾錢
金文字入郵稅 八錢

讀賣新聞記者 福原元君編
家庭書翰 中版並製正價七拾錢
美本郵稅 八錢

廿名士の理想の青年 中版並製正價廿五錢
全一冊郵稅四錢

森村市左衛門翁述
獨立自營 大版上製正價壹圓拾錢
製郵稅拾貳錢

語學數學書類

高橋五郎君著
英語正確使用法 上 製正價六拾錢
金文字入郵稅 六錢

上海同文書院校友谷原孝太郎君著
日清英會話 紙函 製正價 壹圓
入郵稅 八錢

高橋五郎君著
英語熟達法 中版並製正價五拾錢
全一冊郵稅 六錢

高橋五郎君著
英語句讀法 中版並製正價六拾錢
全一冊郵稅 六錢

婦人家庭書類

京都師範學校教諭 木内菊次郎君著
花むすび 大版並製正價五拾錢
全一冊郵稅 六錢

梅田瑞葉君著
折衷新案菓子製法 大版並製正價五拾錢
全一冊郵稅 八錢

報知新聞記者 中村木公君編
名流婦人かかみ 大版上製正價七拾錢
金文字入郵稅 八錢

醫師 武藤喜作君著
家庭應急手當法 中版並製正價四拾錢
全一冊郵稅 六錢

實踐女學校講師 長谷川岩吉君述
刺繡獨習法 大版並製正價卅五錢
全一冊郵稅 六錢

京都師範學校教諭 木内菊次郎君著
折紙と圖畫 大版並製正價卅五錢
全一冊郵稅 六錢

山方香峯君著
日常生活衣食住 大版上製正價壹圓廿錢
金文字入郵稅小包三錢

梅田瑞葉君著
家庭菓子製法 全一冊正價五拾錢
美本郵稅 六錢

村井弦齋君著
婦人の日常生活法 特別上製壹圓廿錢郵稅三錢
並製美本壹圓郵稅八錢

米國理學士大木新三君 鈴木精一君共著
新式代數難問詳解 上 製正價七拾錢
金文字入郵稅 八錢

渡邊徳兵衛君 小里運八君共著
實用珠算教科書 大版並製正價五拾錢
全一冊郵稅 八錢

高間、上田、中宮三君共著
最新珠算全書 大版並製正價卅五錢
全一冊郵稅 六錢

五十嵐次郎君著
最新商業算術 上 製正價八拾錢
金文字入郵稅 八錢

新渡戸坪内 和田垣三博士鑑修
和俗語故事大辭典 實業之日本社編
上製美本小包料拾八錢

實業之日本社編
英語熟達ノート 上 製正價五拾錢
上製全一冊郵稅四錢

今井友次郎君著
實踐商業會話 ポケット型正價六十錢
上製全一冊郵稅四錢

石塚月亭君編 ●**家庭料理** 第一編 三冊 正價各六拾錢 第二編 三冊 正價各六拾錢 第三編 三冊 正價各六拾錢 東京職工學校教諭 本間鶴治君著

●**俗家庭** 全一冊 郵稅八拾錢 堀内新泉君著

●**娘に與母の書簡** 前編四拾錢 郵稅六錢 後編五拾錢 郵稅八錢 へたる 天野誠齋君編

●**家庭日常の實驗** 大版並製正價四拾錢 全一冊 郵稅六錢 報知新聞記者 天野誠齋君編

●**女子處世訓** 並三百五十五頁 正價卅五錢 製十餘頁 郵稅六錢 米國女學記者ベエン氏著 實業之日本編輯

●**日本料理法** 大版並製正價七拾錢 全一冊 美本郵稅八錢 赤堀吉松、赤堀峯吉、赤堀菊子三君共著

●**婦人消息文** 大版並製正價五拾錢 全一冊 郵稅八錢 鶴岡天淵君著

●**婦人の重寶** 大版並製正價五拾錢 一冊 郵稅六錢 西谷龍顯君著

●**健全なる家庭** 中版並製正價廿五錢 全一冊 郵稅四錢 三輪田眞佐子女士序 阿部長咲君著

●**富豪の家風** 全一冊 正價五拾錢 本郵稅六錢 實業之日本編輯

日本石油會社會計課長 竹田常治君著 ●**實家用計簿記** 大版並製正價四拾錢 全一冊 郵稅六錢

木内菊次郎君著 ●**應用紙細工** 大版並製正價五拾錢 全一冊 郵稅八錢

白井悅子女士著 ●**家庭衛生料理法** 大版並製正價五拾錢 全一冊 郵稅八錢 實用

●**造花實習** 大版並製正價六拾錢 全一冊 郵稅八錢 松葉靜和女士著

下田歌子女士著 ●**常識の養成** 大版上製正價壹圓 全一冊 郵稅十二錢

●**諸流盆石指南** 大版並製正價六拾錢 全一冊 郵稅八錢 秤石齋文雅著

●**教育涙と鞭** 中版並製正價參拾五錢 全一冊 郵稅四錢 讀賣新聞家庭記者 中村秋人君著

天野誠齋君著 ●**家事實習法** 大版並製正價四拾錢 全一冊 郵稅六錢

米國婦人ウキルコックス女士原著 山崎梅處君譯 ●**婦人の新修養** 大版並製正價五拾錢 全一冊 郵稅八錢

村井絳齋君著 ●**婦人及男子の參考** 大版上製正價貳圓 全一冊 箱入郵稅拾八錢

木内菊次郎君著 ●**最新手工科教授法** 大版並製正價卅五錢 全一冊 郵稅六錢

文學士 堀田相爾君著 ●**家庭教育的仕方** 中版並製正價卅六錢 全一冊 郵稅四錢

日本女子大學卒業 井上民子女士著 ●**大和撫子** 大版並製正價四拾五錢 全一冊 郵稅六錢

美譯 烈婦大和撫子 ●**少女讀本** 大版上製正價壹圓 全一冊 郵稅八錢

村井絳齋君著 ●**幼情と** 中版並製正價四拾錢 全一冊 郵稅六錢

讀賣新聞記者 中村秋人君著 ●**花の葉** 大版上製正價壹圓 全一冊 郵稅六錢

木村勉君編 ●**流花の葉** 大版上製正價壹圓 全一冊 郵稅六錢

三津木春影君譯 ●**少年旅行** 中版並製正價四拾錢 全一冊 郵稅六錢

東京水 川端龍子合作 ●**夏やすみ** 中版並製正價四拾錢 全一冊 郵稅六錢

下田歌子女士著 ●**婦人禮法** 大版並製正價五拾錢 全一冊 郵稅八錢

元良、福來兩文學博士序 婦女新報主筆 村田天賴君著 ●**婦人の心理** 大版並製正價六拾錢 全一冊 郵稅八錢

六女流教育家序 日本女子商業學校講師 渡邊白水君著 ●**少女美談** 大版並製正價七拾五錢 全一冊 郵稅八錢

渡邊、酒井、大隈三伯序 富益 鈴木 田中三君合著 ●**實用園藝全書** 大版並製正價四拾五錢 全一冊 郵稅八錢

鳥田元磨 東草水君合作 ●**青い鳥** 中版並製正價四拾錢 全一冊 郵稅六錢

少女の友主筆 星野水裏君著 ●**女子教育** 大版並製正價貳拾五錢 全一冊 郵稅四錢

文學博士 谷本富君著 ●**女子進歩と教育** 大版並製正價七拾錢 全一冊 郵稅八錢

女子大學校長 成瀬仁藏君著 ●**日本男兒** 大版並製正價四拾錢 全一冊 郵稅六錢

兒玉花外君著 ●**家庭書簡** 中版並製正價七拾錢 全一冊 郵稅八錢

手紙雜誌主幹 桑田春風君著 ●**烈婦の面影** 大版上製正價七拾錢 全一冊 郵稅八錢

文學士 岩佐重一君著 ●**あはせ鏡** 小版並製正價卅五錢 全一冊 郵稅四錢

藤波芙蓉君著 ●**あはせ鏡** 小版並製正價卅五錢 全一冊 郵稅四錢

●處世書類

- 前田越嶺君著 生存競争法 大版並製正價五拾八錢 全一册郵稅八錢
- 最良の機會 中版並製正價卅五錢 全一册郵稅四錢
- 園田孝吉君著 波多野烏峯君著 紳士と社交 上製正價七拾八錢 金文字入郵稅八錢
- ジョンソン氏著 山崎梅處君譯述 向上的處世法 大版並製正價五拾八錢 全一册郵稅八錢
- 藤川忠雄君著 日常の言語 中版並製正價卅五錢 全一册郵稅四錢
- ミラー博士著 波多野烏峯君譯述 光榮ある生涯 中版並製正價四拾六錢 全一册郵稅六錢
- マシュー博士著 江口岳東君譯 處世術修養 大版上製正價一圓卅錢 全一册郵稅拾貳錢
- 藤川忠雄君著 樂天の生活 大版並製正價五拾八錢 全一册郵稅八錢
- 實業之日本臨時增刊 新時代の奮闘 大版並製正價廿貳錢 全一册郵稅貳錢

●家庭新講談

- 細川風谷君著 家庭新講談 大版並製正價五拾六錢 美本郵稅六錢
- 文學博士 井上願園翁校閱 日本女子大學卒業 井上民子女史著 山田琴歌詳解 大版上製正價七拾八錢 頗美本郵稅八錢
- 村井技齋夫人述 石塚月亭君編 玄米手輕新料理 中版並製正價六拾八錢 美本郵稅八錢
- 日本少年主幹 瀧澤素水君著 冒險怪洞の奇蹟 中版並製正價卅五錢 全一册郵稅六錢
- 讀賣新聞記者 福原元君編 理想の婦人及家庭 中版並製正價四拾四錢 全一册郵稅四錢
- 梅澤和軒君著 清少納言と紫式部 上製正價八拾八錢 郵稅八錢
- 福岡縣技師 山内修一君著 家庭染色法 附洗ボケット型正價卅五錢 上製正價四拾四錢 郵稅四錢
- 村井技齋君著 人情論 菊版並製正價五拾六錢 全一册郵稅六錢
- 長谷部湘雨君著 露子姫 美四六本郵稅四拾四錢
- 日本少年主幹 瀧澤素水君著 少年少女說 花の籠 全四六册郵稅卅五錢

●河原智岐君新著

- 四書處世經典 袖珍上製正價參拾六錢 金文字入郵稅四錢
- 實業之日本社編纂 成功座右銘 袖珍美本正價拾六錢 郵稅四錢
- 男爵辻新次君序 波多野烏峯君著 逆境離脫策 大版上製正價壹圓 金文字入郵稅八錢
- 米國エグレストン氏著 藤川忠雄君譯 處世經濟法 中版正價四拾四錢 全一册郵稅四錢
- 波多野烏峯君譯著 處世の標準 全一册郵稅卅五錢
- 英國リッチー氏著 山崎梅處君譯 富豪實驗教訓 大版正價六拾八錢 全一册郵稅八錢
- 波多野烏峯君著 社會側面觀 上製正價七拾八錢 金文字入郵稅八錢
- 實業之日本社編纂 處世座右訓 袖珍美本正價貳拾錢 郵稅貳錢
- 實業之日本社編纂 成功錦囊 全一册郵稅六拾錢
- 藤川忠雄君著 應對談話法 全一册郵稅廿五錢

●作文書類

- 藤川忠雄君著 英文處世教訓 中版正價卅五錢 全一册郵稅四錢
- 米國富豪ケラハム翁書信 實業之日本社編譯 成功者處世教訓 大版正價四拾六錢 全一册郵稅六錢
- 藤川忠雄君著 文章大成 大版正價壹圓 製郵稅八錢
- 藤川忠雄君著 書信文大成 大版正價八拾錢 製郵稅八錢
- 文學士 久保天隨君著 實用作文法 大版正價四拾五錢 製郵稅六錢
- 文學士 久保天隨君著 書信文作法 中版正價四拾五錢 製郵稅六錢

文學士 久保天隨君著
● 敘事文作法 中 版正價四拾五錢 製郵稅六錢
 文學士 久保天隨君著
● 美文作法 中 版正價四拾五錢 製郵稅六錢
 文學士 久保天隨君著
● 儀式文作法 中 版正價四拾五錢 製郵稅六錢
 實業之日本記者 藤原楚水君著
● 美文辭寶鑑 上 珍正價拾七錢 製郵稅八錢
 鶴岡天淵君著
● 婦人消息文 大版並製正價五拾八錢 全一册郵稅八錢
 金澤商業學校校長 中野觀象君編
● 商業文練習帖 和山觀成君書 和山觀成君書 全一册郵稅四錢
 中野觀象 高間昭君共著
● 商業書信文活法 大版並製正價五拾八錢 全一册郵稅八錢
 金澤商業學校校長 中野觀象君著
● 商業書信文範 大版並製正價四拾六錢 全一册郵稅六錢
 商學士 小林行昌君著
● 商用文教科書 大版上製正價四拾五錢 金文字入郵稅八錢
 高須梅溪君著
● 新時代普通文 中版並製正價五拾六錢 全一册郵稅六錢

文學士 藤田篤君著
● 實用文字便覽 袖珍並製正價五拾五錢 美本郵稅六錢
 手紙雜誌主幹桑田春風君著
● 家庭書簡 大版並製正價七拾八錢 全一册郵稅八錢
 根本秋村君著
● 文章寶鑑 四六 版正價八拾五錢 製郵稅八錢
 各種文體自在

● 雜書類
 大勳位伊藤公顯君 大隈伯自序 江森泰吉君編
● 大隈伯百話 大版上製正價貳圓四拾錢 金文字入書留小包大錢
 米國エール大學教授哲學博士 朝河真一君著
● 日本の禍機 大版並製正價五拾八錢 全一册郵稅八錢
 實業之日本記者 嬌溢生著
● 獨笑珍話 袖珍美本郵稅四拾六錢

英國リチャードソン氏著 實業之日本社譯述
● 最新讀書法 中版並製正價四拾六錢 全一册郵稅六錢
 山方香峰君著
● 讀書便覽 美版並製正價四拾四錢 美本郵稅四錢
 實業之日本社編
● 東西發奮の動機 上 製正價壹圓拾錢 金文字入郵稅八錢
 佐藤青吟君著
● 學生の前途 中版並製正價卅五錢 全一册郵稅四錢
 大隈伯序 永井柳太郎君著
● 英人思ひ出の記 中版並製正價八拾八錢 全一册郵稅八錢
 高須梅溪君著
● 滑稽趣味の研究 中版並製正價六拾六錢 全一册郵稅六錢
 實業之日本社編
● 優等學生勉強法 美 珍正價四拾四錢 本郵稅四錢
 加治木常樹君編
● 西郷南洲書翰集 大版上製正價九拾八錢 寫真入郵稅八錢
 實業之日本記者 嬌溢生著
● 名士奇聞錄 ボケット形正價五拾五錢 頗美 本郵稅六錢
 板垣伯爵 床次次官序 篠原祿次君著
● 地方青年團體の組織及事業 中版並製正價五拾五錢 全一册郵稅六錢

京都大學教授文學博士 谷本富君著
● 女子教育 上大 版正價八圓 製郵稅八錢
 高濱虛子君著
● 鮮 中版上製正價八圓 頗美 本郵稅八錢
 文法學博士 男爵加藤弘之君著
● 自然と倫理 上 版正價八圓 製郵稅八錢
 內務次官 床次竹二郎君述
● 地方自治及振興 上 版正價六圓 製郵稅八錢
 黑頭巾生著
● 趣味 大版並製正價五拾六錢 頗美 本郵稅六錢
 橋詰孝一郎君著
● 中學生と家庭の教養 上 版正價七拾八錢 製郵稅八錢
 今尾掬翠君攝影
● 富士百景 大版箱入正價參圓 頗美 本郵稅拾六錢
 農學士 鈴木敬策君著
● 通俗肥料大全 菊版並製正價壹圓四拾錢 全一册郵稅拾貳錢
 澤田順次郎君著
● 兩性問題 菊版並製正價五拾六錢 全一册郵稅六錢
 醫學博士 楠保三郎君著
● 變り物(俗精神病的性格論及其養生) 菊版上製 正價壹圓 郵稅八錢

實業之日 發行 五 大 雜 誌

▲實業之日本

▲一冊拾壹錢郵稅一錢▲每月二回一日十五日發行年三回增刊▲半年分增刊郵稅共二圓五錢(半年分同參圓拾錢)

▲婦人世界

▲一冊拾五錢郵稅一錢五厘▲每月一回一日發行▲半年分增刊郵稅共壹圓五錢▲一年分同二圓五錢

▲日本少年

▲一冊拾錢郵稅一錢▲每月一回一日發行▲春秋二回增刊▲半年分增刊郵稅共七錢▲一年分同壹圓卅五錢

▲少女の友

▲一冊拾錢郵稅一錢▲每月一回一日發行▲春秋二回增刊▲半年分增刊郵稅共七錢▲一年分同壹圓卅五錢

▲幼年の友

▲一冊拾錢郵稅五厘▲每月一回一日發行▲六冊郵稅共五十八錢▲十二冊同壹圓拾錢

●最新刊書籍

江見水蔭君著 ●豪傑の子 全一冊 版正價五拾六錢 郵稅六錢
 三津木春影君著 ●孤島の姉妹 全一冊 版正價卅五錢 郵稅六錢
 報知新聞記者 磯村春子女士著 ●新家庭のあみもの 菊版並製正價四拾五錢 全一冊 郵稅六錢
 文學士 小尾範治君著 ●大王アレキサンダー 並 四六版正價四拾六錢 製郵稅六錢
 櫻井ちか子女士著 ●實用和洋惣菜料理 全一冊 版正價四拾五錢 郵稅八錢
 讀賣新聞記者中村秋人君著 ●模範子 全一冊 版正價六拾八錢 郵稅八錢
 米光關月君著 ●秋子の命 全一冊 版正價廿五錢 郵稅四錢
 讀賣新聞記者福原元君著 ●諸名の青年處世訓 全一冊 版正價三十五錢 郵稅六錢
 渡邊新三郎君著 ●明治天皇御製謹解 上 版正價壹圓 製郵稅八錢

日本少年主幹 瀧澤素水君著 ●怪奇難船崎の怪 並 四六版正價卅五錢 製郵稅六錢
 山本唯三郎君著 ●支那の將來 上 菊版正價壹圓五拾錢 製郵稅十二錢
 農法學博士新渡戸稻造君著 ●世渡りの道 上 菊版正價壹圓七拾錢 製郵稅十二錢
 實業之日本社長 増田義一君著 ●青年と修養 上 菊版正價壹圓五拾錢 製郵稅十二錢
 水野葉舟君著 ●妹に送る手紙 全一冊 版正價五拾六錢 郵稅六錢
 農學博士 玉利喜道君著 ●内觀的研究(邪氣新) 菊版正價八拾錢 製郵稅八錢
 日本少年主幹 瀧澤素水 倉田濱荻 兩君合著 ●少年作文の秘訣 並 四六版正價卅五錢 製郵稅六錢
 地方局長法學博士 水野謙太郎君著 ●自治制の活用と人 上 菊版正價八錢 製郵稅八錢
 高須梅溪君著 ●中學生諸君 並 四六版正價五拾錢 製郵稅六錢
 兒玉花外君 ●熱血英雄傳 並 四六版 目下印刷中 製郵稅六錢

高瀬大正監

本社宛書籍雑誌物品

御注文の節は安全に

して迅速なる送金法

「郵便振替貯金口座

三二六番」

を御利用被下様願上

候

出版部發行

書籍目錄

代理部取次

特價目錄

右御入用の方は往復

はがきを以て御申し

越被下度候



273
14

12. 2. 28

終

